

第 3 次府中市生涯学習推進計画 (案)

平成 30 年 9 月

はじめに（市長あいさつ）

目 次

はじめに

第 1 章 計画の概要	1
1. 策定の背景と目的	1
(1) 生涯学習をめぐる国と東京都の動向	1
(2) 府中市の生涯学習	3
(3) 策定の目的	6
2. 計画の位置付けと期間	8
(1) 計画の位置付け	8
(2) 計画の期間	8
3. 計画策定の体制	9
第 2 章 府中市の生涯学習を取り巻く現状と課題	11
1. 府中市の現状	11
(1) 生涯学習系施設の設置状況	11
(2) 生涯学習施設の利用状況	13
2. 府中市の生涯学習の現状と課題（市民アンケート調査及びヒアリング調査より）	14
(1) 市民の生涯学習の現状	14
(2) 「学び返し」について	15
(3) 生涯学習を実施する上での課題	17
第 3 章 計画の方向性	18
1. 基本理念	18
2. 基本目標	19
3. 施策体系	20
第 4 章 具体的な施策の展開	21
基本施策 1 誰もが学べる環境づくり	21
(1) 現状と課題	21
(2) めざす姿	23
(3) 施策目標	23
(4) 施策の方向性	24
施策 1 新たな参加者を取り込むための学習環境づくり（重点施策）	24
施策 2 市民の特性に合わせた学習環境づくり	26
施策 3 気軽に参加できる学習環境づくり	28
基本施策 2 誰もが活躍できる環境づくり	29
(1) 現状と課題	29
(2) めざす姿	30
(3) 施策目標	30

（４）施策の方向性	32
施策１ 生涯学習と地域還元をつなげる事業の実施（重点施策）	32
施策２ 生涯学習を地域づくりにつなげる人材の育成や登用	34
施策３ 市民が活躍する場の拡大	36
基本施策３ 生涯学習を支える基盤の整備	38
（１）現状と課題	38
（２）めざす姿	39
（３）施策目標	39
（４）施策の方向性	40
施策１ 生涯学習の広報の強化（重点施策）	40
施策２ 施設と事業との連携	41
施策３ 生涯学習の推進機能の充実	43
施策４ 安心・安全に利用できる施設の環境づくり	44

第５章 計画の実現に向けて 45

１．計画の推進体制	45
２．計画の進行管理	46

資料編 48

年度（年）の表記について

新天皇の即位に伴う改元が行われたときには、本書に記載している「平成」の元号を用いた年度（年）の表記は、それぞれに対応する新元号を用いた年度（年）を表すものとします。

第1章 計画の概要

1. 策定の背景と目的

(1) 生涯学習をめぐる国と東京都の動向

ア 国における生涯学習の考え方

「生涯学習」とは、人々が生涯に行うあらゆる学習、すなわち、学校教育、家庭教育、社会教育、文化活動、スポーツ活動、レクリエーション活動、ボランティア活動、企業内教育、趣味など様々な場や機会において行う学習という意味で用いられます。また、人々が、生涯の中でいつでも、自由に学ぶことができ、その成果が適切に評価される社会を「生涯学習社会」と呼び、その実現が国の教育行政の大きな目標となっています。

教育基本法では第3条に生涯学習が記載されており、これに基づいた文部科学省の第3期教育振興基本計画では、「人生100年時代を見据えた生涯学習の推進」としてその振興のあり方が記載されています。

イ 国における生涯学習行政の位置付けと近年の動向

平成25年第6期中央教育審議会生涯学習分科会の論点整理では、生涯学習行政について「社会教育行政や学校教育行政等において個別に実施される教育に係る施策、首長部局において実施される生涯学習に資する施策」を「調和・統合させる」ものであるとともに、社会教育を「生涯学習社会の構築の中心的な役割を担う」と位置付けています。地方公共団体において生涯学習行政を推進するにあたっては、この2点を踏まえていくことが求められます。

このうち、社会教育行政については、「学びを通じた地域づくりの推進に関する調査研究協力者会議」の論点整理（平成29年）において、今後の社会教育に期待される役割として「学びの成果を地域づくりの実践につなげる地域課題解決型学習」ことが明記され、その実現のため、「学校・首長部局・NPO・民間教育事業者等との多様な主体とのネットワーク化・パートナーシップの推進」、「地域課題に応じて学習活動を組み立て課題解決につなげることができる学びのオーガナイザー¹の養成」が打ち出されています。この具体化も、また、地方公共団体における生涯学習行政の今後のポイントとなります。

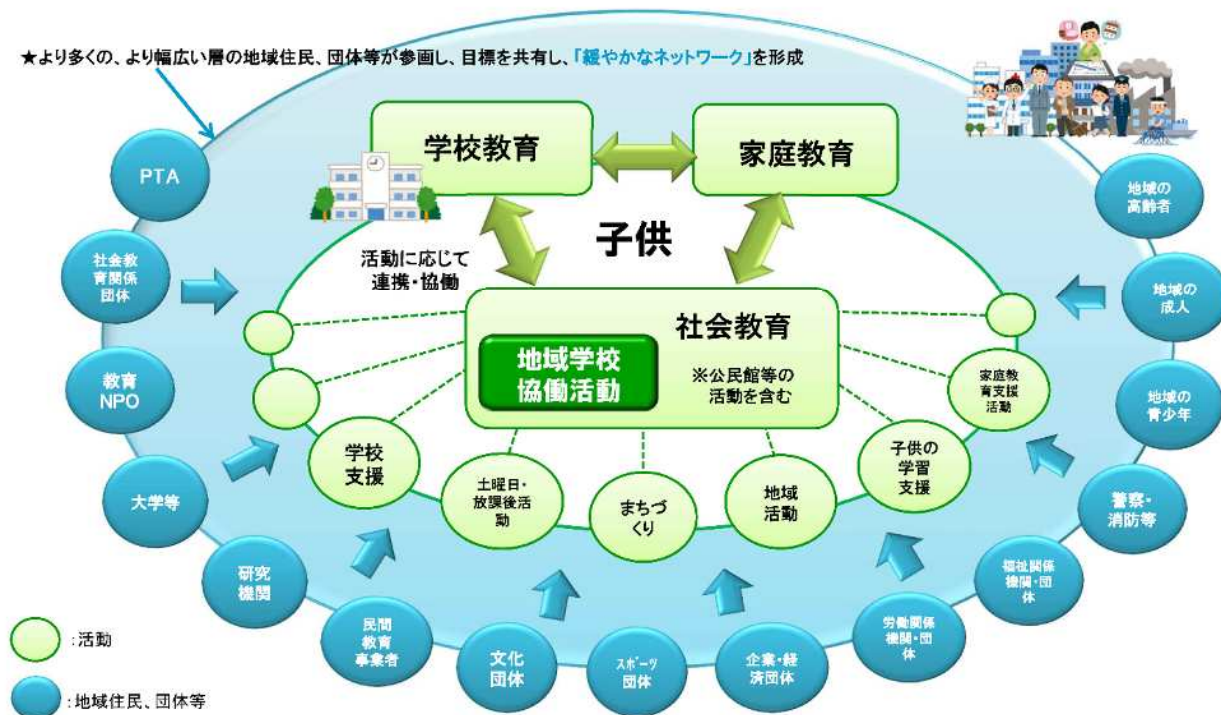
一方、学校教育との連携については、平成27年に中央教育審議会答申において、地域の人々や団体による「地域学校協働本部」を構築し、学校との連携・協働を推し進めていくことが提言されています。これは平成28年策定の『「次世代の学校・地域」創生プラン」にも引き継がれ、地域学校協働本部の整備の支援やその中核的な人材となる統括コーディネーターの育成、地域住民の参画の支援などの具体的な施策が打ち出されています。

¹ 学びのオーガナイザーとは、同論点整理において、「住民の中に入り込み、住民やNPO、大学、企業等の様々な主体を結び付け、地域の資源や各主体が有する強みを活かしながら、地域課題に応じて『学び』や『実践』の場をアレンジすることにより地域課題を『学び』に練り上げ、課題解決につなげていく人材」と定義されています。

地域全体で未来を担う子供たちの成長を支える仕組み（活動概念図）

- ◎ 次代を担う子供に対して、どのような資質を育むのかという目標を共有し、地域社会と学校が協働。
- ◎ 従来の地縁団体だけではない、新しいつながりによる地域の教育力の向上・充実は、地域課題解決等に向けた連携・協働につながり、持続可能な地域社会の源となる。

★より多くの、より幅広い層の地域住民、団体等が参画し、目標を共有し、「緩やかなネットワーク」を形成



文部科学省ホームページより

ウ 東京都における動向

東京都の生涯学習審議会では、平成 17 年より、「地域教育プラットフォーム構想」を打ち出しています。これは、学校区単位での「地域教育」を生涯学習の基本として捉えた上で、学校・家庭・地域が協働し、子どもの育成・教育活動に取り組んでいくための共通の土台を整え、多様な担い手の参加のもとに地域の教育力を再構築していくための仕組みを作っていこうというものです（第 5 期審議会答申「子ども・若者の『次代を担う力』を育むための教育施策のあり方について～『地域教育プラットフォーム』構想を推進するための教育行政の役割～」）。

これに基づき、平成 24 年の第 8 期審議会では「子供・若者の『社会的・職業的自立』を目指した教育支援の総合的な方策について」を、平成 28 年の第 9 期審議会では「今後の教育環境の変化に対応した地域教育の推進方策について -地域教育プラットフォーム構想の新たな展開-」を建議しています。なお、平成 30 年には、地域教育プラットフォーム構想を引き継ぐとともに、国における地域学校協働活動の推進方針と「東京都教育施策大綱」の方向性を踏まえた「『地域と学校の協働』を推進する方策について」について、中間のまとめを出しています。

(2) 府中市の生涯学習

ア 府中市の生涯学習の歩み

本市では、昭和 58 年、「府中市総合計画(基本計画)」の改定を行った際に、教育に関する主要な目標として、「生涯教育の推進」を掲げました。これに基づき昭和 60 年に「府中市生涯教育検討協議会」を設置し、同協議会の下、生涯学習に関わる各種施策が実施され、平成 5 年に生涯学習センターが開館、これに併せて本市の生涯学習行政は、生涯学習センターを中心に展開されることとなりました。また、平成 11 年には、本計画の前々計画となる「府中市生涯学習推進計画～市民カレッジの展開にむけて～」を策定し、市全体をカレッジに見立てた市民の計画的な学習を支援しました。

続く平成 15 年には、「府中市社会教育委員会議」、「府中市公民館運営審議会」、「府中市生涯学習推進協議会」の機能を統合し、公募市民や有識者からなる、「府中市生涯学習審議会」を設置しました。この府中市生涯学習審議会のもと、平成 21 年に、前計画となる「第 2 次府中市生涯学習推進計画」を策定し、「学び返し」を通じた地域教育力の向上を目指しました。また、同審議会からは平成 29 年までに次の提言・答申を受けています。

- ・第 1 期生涯学習審議会提言『「学び返し」の中から豊かな生涯学習を』(平成 17 年 3 月)
- ・第 2 期生涯学習審議会中間答申『地域教育力を高めるための新しい生涯学習について』(平成 18 年 3 月)
- ・第 2 期生涯学習審議会答申『「学び返し」を通じた地域教育力の向上～府中市生涯学習推進計画(第 2 次)策定にむけての見直しへの提言』(平成 19 年 3 月)
- ・第 3 期生涯学習審議会答申『未来を託す子どもたちへ今こそ「学び返し」の実践を～地域・家庭からの第一歩』(平成 21 年 2 月)
- ・第 4 期生涯学習審議会中間答申『第 2 次生涯学習推進計画の具体化に向けて(1)「学び返し」を実現するために』(平成 22 年 3 月)
- ・第 4 期生涯学習審議会答申『「学び返し」の体制づくり～「おせっかい精神」の再発見～』(平成 23 年 3 月)
- ・第 5 期生涯学習審議会答申『「学び合い教え合う「学び返し」～市民と行政の新たな協働を目指して～』(平成 25 年 3 月)
- ・第 6 期生涯学習審議会答申『市民協働で生涯学習の充実を～「学び返し」で人がつながり 人を育てる～』(平成 27 年 3 月)
- ・第 7 期生涯学習審議会答申『地域の教育力を活用した家庭教育支援のあり方/活動を支援すべき社会教育関係団体の定義及び当該団体に行う支援のあり方』(平成 29 年 3 月)

なお、上記提言・答申は、社会教育分野における生涯学習活動を対象とした内容となっていますが、第 7 期においては、家庭教育支援のあり方に関連して学校・地域・家庭の連携についても検討しており、国における地域学校協働活動の推進方針と連動した方向性(生涯学習ファシリテーターと地域学校協働活動の地域コーディネーターとの連携や兼任など)について答申しています。

イ 「学び返し」の理念の確立

府中市生涯学習審議会および第6次総合計画前期基本計画の文化・学習分野で最大の提言や取組として挙げられるのが、本市独自の生涯学習の理念である「学び返し」という考え方の確立です。「学び返し」とは「市民一人ひとりが持っている力を、社会に還元していくこと」を意味し、平成17年3月の第1期生涯学習審議会提言では次のように記載されています。

「学び」を「返す」とは、これら市民一人ひとりが持っている力を、社会に還元していくことである。自分の体験してきたことや技術・技能を伝えていくこと、また学んだことを活用していくことは、人と人との間をつなぎ、環をつくりあげていくという双方向性と循環性をもつ。これからの生涯学習を考える時、まず市民の一人ひとりが自分自身の持っている豊かな力を改めて自覚、認識して、生涯学習から得たものを家庭や地域社会で実践していく動きを始めることが大切なのである。 「はじめに」より

第2次府中市生涯学習推進計画では、この「学び返し」の理念の確立を受け、計画の基本理念として「学び返しを通じた地域教育力の向上」を打ち出しています。

これに基づき、計画の基本目標としても、「学び返し」を広く位置づけています。はじめに「1.学んだことを地域で生かす-『学び返し』の支援とネットワークの整備」を掲げ、また、「4.『学び』・『学び返し』を迅速・適切につなぐ情報提供・相談体制の拡充」として「地域の担い手(ファシリテーター)の実現」を提言しています。ファシリテーターは、「5.推進体制の整備」において、市民との連携・協働および地域ぐるみの生涯学習推進体制の中心としても位置づけています。

ウ 府中市の生涯学習の先駆性と第2次府中市生涯学習推進計画の課題

府中市生涯学習審議会が提言し、第2次府中市生涯学習推進計画の基本理念として掲げられた「学び返し」の考え方は、生涯学習の活動を、学ぶだけでなく、そこで身につけた力を地域や社会に還元していくことまで拡大した点において、平成29年に国が「学びを通じた地域づくりの推進に関する調査研究協力者会議」の論点整理で提示した「学びの成果を地域づくりの実践につなげる地域課題解決型学習」に先行したものとなっています。また、「学び返し」を地域で進めていく上で、担い手としてファシリテーターを育成・活用するとし、そこを中核とした市民が主役の自立的な生涯学習のあり方を構想していた点も、同論点整理において提示された「学校・首長部局・NPO・民間教育事業者等との多様な主体とのネットワーク化・パートナーシップ」、「地域課題に応じて学習活動を組み立て課題解決につなげることができる学びのオーガナイザーの養成」とほぼ重なる考え方となっています。この意味において、平成17年という早い時期に「学び返し」の理念を確立した本市の生涯学習は、極めて先駆的なものであったと評価できます。

一方、第2次府中市生涯学習推進計画の進展には課題もあります。生涯学習活動全般については、指定管理者制度の導入などの民間活力の活用も順調に進んだことから、生

涯学習センターを中心に極めて活発な状況を維持している反面、「学び返し」の実現においては、その中核として構想された生涯学習ファシリテーターの育成と活用が十分とはいえませんでした。その結果、地域や社会への還元に直結する「学び返し」型の生涯学習の広がりも限定されたものとなっています。

この背景には、基本目標の「4.『学び』・『学び返し』を迅速・適切につなぐ情報提供・相談体制の拡充」「5.推進体制の整備」に当たる部分、市内の生涯学習全体を把握し、庁内連携や施設間連携を推し進め、そのもとに全体的な生涯学習および「学び返し」の広報などが十分とはいえませんでした。これは、平成25年第6期中央教育審議会生涯学習分科会論点整理で生涯学習行政の固有の領域とされた「生涯学習に資する施策等について、その全体を総合的に調和・統合させる」部分に当たるものでもあり、本計画では重点的に取り扱っていくこととします。

(3) 策定の目的

国や都の動向および府中市の生涯学習の動向を踏まえ、次のように重点を置いた本市独自の生涯学習のあり方を明確にし、今後の本市の生涯学習の方向性を定めます。

ア 市の上位計画に合わせた「学び返し」の理念の強化とそれに基づく生涯学習の活性化

「学び返し」の理念は、本市独自の生涯学習の概念であるだけでなく、国の最新動向を先取りした極めて先駆的なものでもあります。これを踏まえ、本計画でも、「学び返し」を基本的な考え方としてその理念の発展を図りつつ、本市の生涯学習の活性化を図っていくこととします。

本市では、平成26年10月19日、市制施行60周年記念式典において、「市民協働都市」とすることを宣言しました。また、平成26年度からを計画期間とする第6次総合計画の基本構想を、「市が市民とともに協働して達成を目指す計画」として位置付け、さらにはその「目指す都市像を」**「みんなで創る 笑顔あふれる 住みよいまち」**と定め、市民協働を中心とした地域づくりに取り組んでいます。

「学び返し」は、市民主体の生涯学習活動の確立を目指し、また、生涯学習で培った市民一人ひとりの力の社会への還元を目指す点で、市民協働の方向性に非常に適合性の高いものとなっています。これを踏まえ、本計画では、これまで以上に「学び返し」の市民協働の側面を強化していくこととします。

イ 生涯学習全体の統合・調和機能の強化

本市の生涯学習は、平成5年に生涯学習センターが開館して以来、主に生涯学習センターでの運営や活動にその焦点をあてて進んできました。しかし、「学び返し」の理念が浸透し、実践に移していくためには、特定の施設だけに焦点を合わせるのではなく、他部課の各事業や市内の各施設をはじめ、学校・市民団体・NPO団体・学習グループ・民間企業など、地域全体での連携や協働が重要となります。これは、第6次府中市総合計画の前期基本計画でも目指していた点ですが、地域協働の要となるべき生涯学習ファシリテーターの活用があまり進んでいないなど、大きな成果を生み出すには至っていません。

本計画では、こうした状況を踏まえ、また、生涯学習の固有領域が、家庭教育・学校教育・社会教育全体を含む生涯学習全体の統合・調和にあることに立ち戻って、各領域を横串にし、広報をはじめとした全体の連携や協働を進める施策に一層の注力をしていくこととします。

ウ 広域イベントと府中市の地域振興との連携

本市は、長い歴史文化を背景に、豊かな文化財や伝統行事、伝統芸能に恵まれた地域です。武蔵野の自然も美しく、文化施設やスポーツ施設などの生涯学習施設の整備も進んでおり、豊かな文化を楽しめる環境が整っています。こうしたことから、市民の郷土意識・コミュニティ意識は高く、市民主体の行事も多様に行われています。このような地域特性、市民の意識は、生涯学習活動を市民協働で実施するための優れた条件となってお

り、実際、伝統文化の継承は、市の「学び返し」活動の代表的な事例ともなっています。

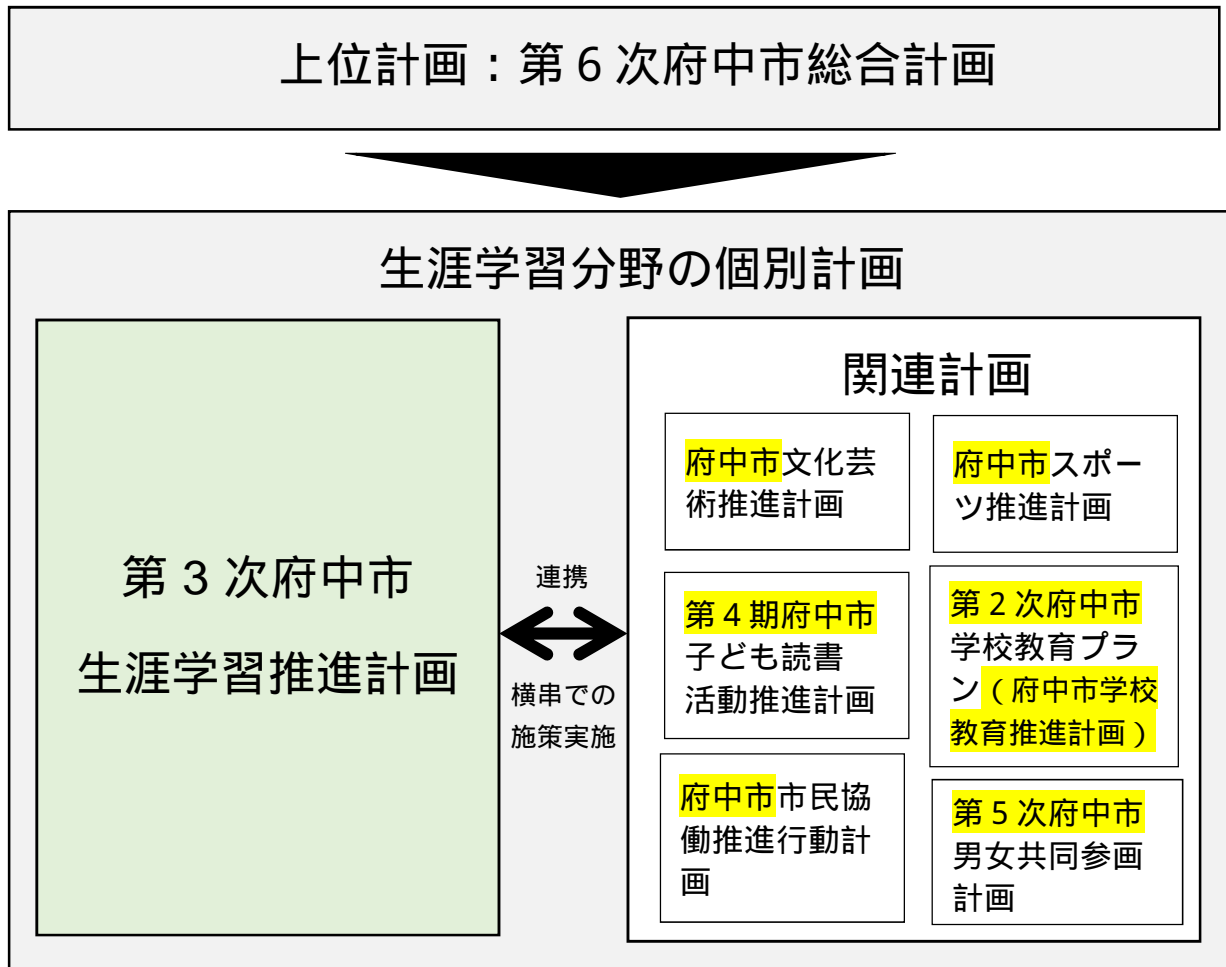
本計画では、こうした状況を踏まえ、市民の多くが興味・関心を持つ歴史文化や伝統行事、自然、文化などの「府中市ならではの」領域を最大限に活用することにより、多くの市民を生涯学習活動や「学び返し」の活動に巻き込む契機としていくこととします。

本計画の初年度にはラグビーワールドカップ 2019 が、次年度には東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会（以下、「東京 2020 大会」といいます。）が実施されます。これに併せ、本市でも、関連の事業が様々に進行しています。生涯学習や「学び返し」の普及にあたっては、市民の大きな関心事となる事業との積極的な連携・協働を進め、多くの市民と協働していくこととします。更に、大会終了後も、レガシー（遺産）として協働での活動を継承・発展させ、市民の生涯学習に取り組む意識を高めていきます。

2. 計画の位置付けと期間

(1) 計画の位置付け

本計画は、第6次府中市総合計画を上位計画とし、その他の分野別計画との整合を図り、本市の生涯学習推進のために必要な施策を計画的かつ継続的に推進するものです。



(2) 計画の期間

本計画の期間は、平成31年度から平成38（2026）年度までの8年間とします。

	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	36年度	37年度	38年度
総合計画	第6次府中市総合計画（平成26-33年度）						第7次府中市総合計画				
生涯学習推進計画	第2次府中市生涯学習推進計画（平成21-30年度）			第3次府中市生涯学習推進計画（平成31-38年度）							

3 . 計画策定の体制

本計画の策定に際しては、府中市生涯学習審議会において、計画の方向性や取組など、計画全般にわたり協議及び意見交換を行い、素案を作成し答申しました。本計画は、この答申に基づき策定しています。

また、市民を対象とした「府中市の生涯学習に関する市民アンケート調査」を行うとともに、市内の生涯学習系施設や生涯学習サポーター登録者、生涯学習ファシリテーター養成講座受講者にヒアリング調査を実施しました。

府中市生涯学習審議会

府中市生涯学習審議会は、生涯学習に識見を有する委員や市民公募 15 名によって構成されています。府中市教育委員会の附属機関として設置され、市民の生涯学習の振興に関する事項について調査審議を行い、その結果を答申しました。

府中市の生涯学習に関する市民アンケート調査

市民の生涯学習に関する意識や行動についての現状把握や施策検討に活用するため、市内に在住する満 18 歳以上を対象にアンケート調査を実施しました。

調査概要

調査対象：府中市在住の満 18 歳以上の中から、2,000 人を無作為に抽出

調査期間：平成 30 年 1 月 17 日（水）～平成 30 年 2 月 16 日（金）

調査手法：郵送による配布、郵送による回収

回収数・回収率：配布数 2,000 票、回収数 666 票、回収率 33.3%

内 容：生涯学習の現状について、府中市の生涯学習の施策に対する今後の意向について、生涯学習の成果について、「学び返し」についてなど

生涯学習系施設・生涯学習サポーター・生涯学習ファシリテーター養成講座受講者へのヒアリング調査

市内の生涯学習系施設を対象に、生涯学習関連の事業を行う上での現状と課題や今後の事業の方向性などについて、また、生涯学習サポーター登録者と生涯学習ファシリテーター養成講座受講者を対象に、制度へのご意見や活動状況などについて、ヒアリング調査を実施しました。

調査概要

調査対象：生涯学習系施設 10 施設、生涯学習サポーター3 名、生涯学習ファシリテーター養成講座受講者 3 名

調査期間：平成 30 年 6 月 6 日（水）～平成 30 年 6 月 12 日（火）

調査手法：施設には調査員が出向き、事業担当者にインタビュー形式で聞き取り調査
生涯学習サポーターと生涯学習ファシリテーター養成講座受講者各 3 名に、それぞれグループインタビュー形式で聞き取り調査

内 容：（施設）事業の実施状況、市民の参加状況、事業の企画方針、事業実施にあたっての課題、市の生涯学習施策について、「学び返し」について、他施設・団体等との連携について、登録団体・ボランティア等について、今後の方向性など

（生涯学習サポーター登録者）

登録のきっかけ、登録後の活動状況について、制度について、市の生涯学習施策についてなど

（生涯学習ファシリテーター講座受講者）

受講のきっかけ、受講した感想、活動状況、市の生涯学習施策についてなど

第2章 府中市の生涯学習を取り巻く現状と課題

1. 府中市の現状

(1) 生涯学習系施設の設置状況

本市では、生涯学習系施設として、生涯学習センターを中心に、図書館（中央図書館および地区図書館12館）、文化センター内公民館（11館）、ルミエール府中（市民会館）、市民活動センタープラッツ、専門文化芸術施設（美術館、府中の森芸術劇場および分館）、博物館・資料館（郷土の森博物館、ふるさと府中歴史館、国史跡武蔵府中熊野神社古墳展示館）、スクエア21・府中市女性センター、スポーツ施設（市民球場・野球場、庭球場、郷土の森総合体育館・地域体育館、プール、サッカー場、ゲートボール場施設など）を整備しています。

近隣他市と比較してみると、大規模な生涯学習センターが整備されている、専門の文化芸術施設として本格的な美術館や2,000席超のホールが整備されている、スポーツ関連の施設数が多く、個別施設の規模も大きい、という点で恵まれています。また、生涯学習センター、ルミエール府中、市民活動センタープラッツなど主要な施設では指定管理者制度を導入し、夜10時までの夜間開館を実施しています。

府中市内の生涯学習系施設

地図が入る予定

地図の施設と対応するように、
番号などを付けて修正する
予定

施設	利用時間	
府中市生涯学習センター	学習施設	午前 9 時～午後 10 時 (図書館は平日午前 9 時～午後 7 時、土・日・祝日午前 9 時～午後 5 時)
	体育施設	午前 9 時～午後 9 時半
	宿泊施設	原則として午後 3 時～ 6 時(チェックイン) 原則として午前 9 時～ 10 時(チェックアウト)
図書館 (13 館)	中央図書館	午前 9 時～午後 10 時(利用登録・レファレンスは午前 9 時～午後 7 時)
	地区図書館 (12 館)	午前 9 時～午後 5 時(生涯学習センター図書館は平日午前 9 時～午後 7 時、土・日・祝日午前 9 時～午後 5 時)
文化センター (11 館)	午前 9 時～午後 9 時(延長の場合、午後 10 時まで)	
ルミエール府中 (市民会館)	午前 9 時～午後 10 時	
府中市市民活動センタープラッツ	午前 8 時 30 分～午後 10 時	
府中市美術館	午前 10 時～午後 5 時	
府中の森芸術劇場 府中の森芸術劇場分館	午前 9 時～午後 10 時	
郷土の森博物館	午前 9 時～午後 5 時	
ふるさと府中歴史館	午前 9 時～午後 5 時	
国史跡武蔵府中熊野神社古墳展示館	午前 9 時～午後 5 時	
スクエア 21・府中市女性センター	午前 9 時～午後 10 時	
府中市市民陸上競技場	午前 9 時～午後 9 時	
府中市市民球場・野球場 (8 か所)	施設ごと、季節ごとに異なる	
庭球場 (14 か所)	施設ごと、季節ごとに異なる	
体育館 (8 か所)	午前 9 時～午後 9 時	
プール (8 か所)	府中市民 (郷土の森) 総合プール	午前 10 時～午後 5 時
	地域プール (7 か所)	午前 10 時～午後 5 時 30 分(市民プールのみ、ナイター開催期間中は午後 8 時まで)
サッカー場 (4 か所)	施設ごと、季節ごとに異なる	
ゲートボール場 (3 か所)	-	
その他体育施設 (小柳町運動広場・武蔵台公園運動広場・八幡町運動広場)	-	

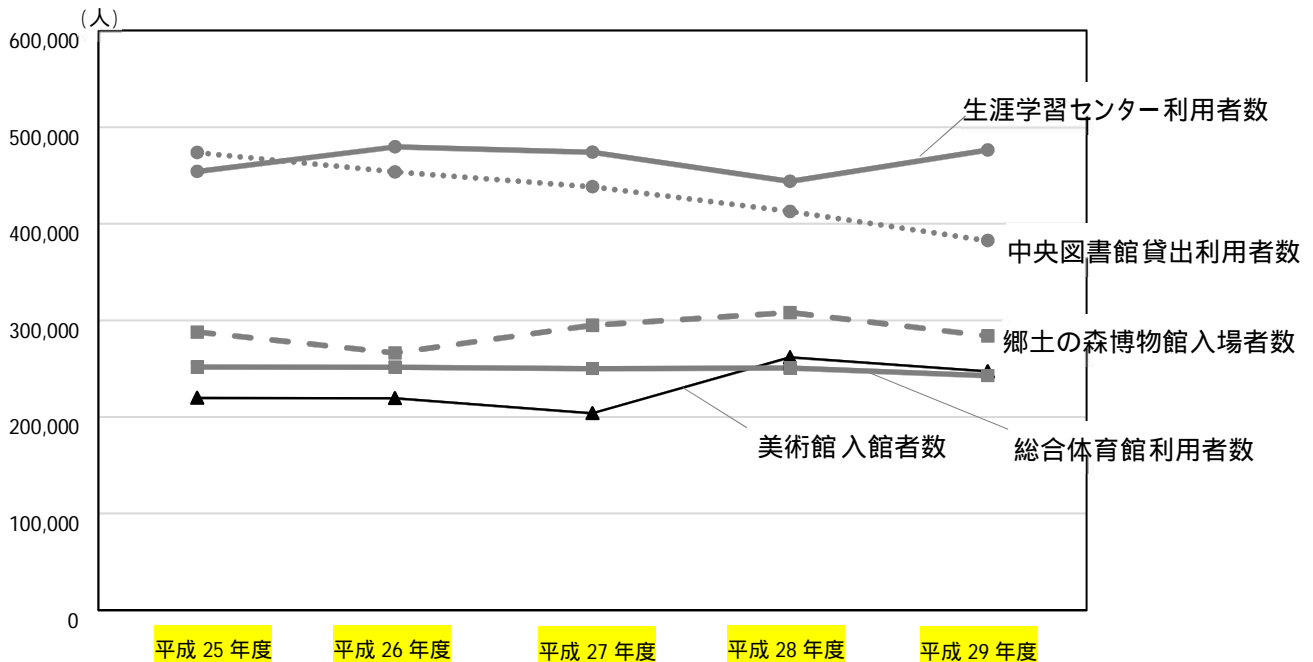
平成 31 年 3 月 31 日現在

(2) 生涯学習系施設の利用状況

本市の各生涯学習系施設の述べ利用人数（ルミエール府中 市民会館及び平成 29 年 7 月開館の市民活動センタープラッツを除く）を見ると、平成 29 年度は 480 万人以上にも及びます。これは、市民一人当たりには換算すると年間約 20 回利用した数値になり、非常に高いものとなっています。また、ルミエール府中 市民会館の稼働率を見ると、平成 29 年度は 55.6%、平成 25 年度から平成 29 年度の 5 年間の平均稼働率は、58.1%となっております。

なお、個別の施設については、年度ごとに増減がありますが、多くは臨時的要因によるものとなっており、長期的に利用者数が大きく減少している施設はありません。

主な生涯学習系施設の利用状況（事務事業評価より）



2. 府中市の生涯学習の現状と課題

市民アンケート調査及び市内施設ヒアリング結果により、市民の生涯学習の現状と課題を明らかにしました。

(1) 市民の生涯学習の現状

ア 市民の生涯学習の実施状況

市民の「生涯学習」という言葉の認知は、「知っていた」(64.9%)、「聞いたことはあるが意味は知らなかった」(26.1%)となっており、「知らなかった」という比率は7.2%にとどまっています(市民アンケート問1より)。また、生涯学習活動の実施率をみると、何らかの生涯学習活動をしている比率は80.3%に上っており、非常に高い比率となっています。ただし、属性別にみると、していない比率が「男性」で29.7%、「40代」で26.3%、「有職(パート/アルバイト以外)」で25.3%と全体平均より高くなっており、就労者があまり生涯学習活動を実施できていない状況が見受けられます(市民アンケート問2より)。

また、各施設に対するヒアリングでも、高齢者や親子向けの企画が多く、就労者層向けの企画は少ないという回答がありました。

イ 生涯学習活動の内容

実施している生涯学習活動の内容では「健康・スポーツ」関連が55.3%で最も多く、次に「趣味に関するもの」の42.2%、「仕事をするうえで必要な知識・技能」の23.9%と続いています。年齢別では、若年層では「健康・スポーツ」「趣味」「教養」が多く、30代では「仕事」「教養」「育児」が多いという結果になっています(市民アンケート問2より)。

ウ 生涯学習の実施方法

生涯学習の実施方法では、「自宅での学習活動」が55.6%と最も高くなっていますが、次に「図書館、博物館、美術館の利用」の40.9%、「生涯学習センター、文化センターなどにおける講座や教室」の31.4%が続いており、本市の生涯学習系の施設が、市民の生涯学習の実施において、大きく貢献していることがわかります(市民アンケート問3より)。

エ 利用施設

生涯学習活動を実施している市民の中で最も利用率が高い市の施設は「ルミエール府

中「中央図書館」の27.9%となっており、次に「地区図書館」の25.1%、「文化センター」の21.6%、「生涯学習センター（体育施設）」の16.4%となります。なお、生涯学習センター内のいずれかの施設を使った比率は35.1%で、ルミエール府中のいずれかの施設を使った比率の34.0%を若干上回っています（市民アンケート問6より）。

オ 市の生涯学習事業への参加意向

全体の80.8%が市の生涯学習事業に「参加したい」と回答しており、参加意向が大変高い状況です。年代別にみると、「参加したいと思わない」という回答が全体平均より10ポイント以上高いのは、80代以上の28.6%に限られており、また、有職層（パート/アルバイト以外）で79.5%、有職者（パート/アルバイト）で86.0%が「参加したい」と回答するなど、現実の生涯学習の実施状況に関わらず、多くの市民に高い参加意向が見られます（市民アンケート問10より）。

（2）「学び返し」について

ア 「学び返し」の認知度

「学び返し」を「知っていた」は5.7%、「聞いたことはあるが、意味は知らなかった」は7.5%となっており、認知度はあわせて13.2%にとどまっています。一方、「知らなかった」という回答は84.5%と極めて高くなっています（市民アンケート問20より）。

また、施設ヒアリングの結果でも、「学び返し」が施設現場であまり浸透しておらず、そのため、「学び返し」を意識した事業の実施が十分に行われていない傾向があります。

イ 実施率と意向

「学び返し」をしたことがあるという回答は12.2%にとどまります。一方、自らが生涯学習で身につけた成果を自分以外に活かしたいという意向（「学び返し」をしたいという意向）は80.0%と非常に高くなっています。（市民アンケート問16より）

市民一人ひとりには「学び返し」をしたいという意向があるにも関わらず、それがうまく実施につながっていない傾向にあります。

ウ 「学び返し」をしたことがない理由

「学び返し」をしたことがない理由で最も多いのは「機会がない」が52.1%で、次に「教えるものがない」（33.3%）、「時間が取れない」（31.6%）と続いています（市民アンケート問24より）。

市民の多くについては、実際に生涯学習の成果を社会や地域に還元する機会をうまく提供することができれば、「学び返し」の活動に参加してもらえる可能性が高いと考えら

れます。

エ 「学び返し」を促進するための手段

「『生涯学習』を通じて身につけた知識・技能や経験を、自分以外のために活かすには、どのようなことが必要だと思いますか」という質問に対して、最も回答が多くなっているのは、「地域活動・ボランティアの情報提供の充実」の51.2%で、次に「知識・技能や経験を活かす人と活動の場を結ぶ人の充実」の51.0%が続き、3番目には「人材登録制度の充実」の25.7%が続いています（市民アンケート問18より）。

これを踏まえると、まず重要なのは広報や情報提供体制およびその基盤となる生涯学習関連の施設・機関・団体などとの連携であり、次に生涯学習ファシリテーターの活躍、さらには生涯学習サポーターへの登録になります。こうした施策の充実が市民を「学び返し」に導いていく重要なポイントとなっていくと考えられます。

オ 「学び返し」のテーマ

市民に、市の特徴を活かした「学び返し」のテーマについて聞いたところ、「郷土史学習/お祭り等の伝統文化継承」が36.1%と多く、次に「生涯学習・学び返しのPR」の10.8%、「イベント形態の改善」(10.2%)、「自然体験」(9.0%)、「市内ツアーやマップづくり」(6.0%)、「育児・高齢者福祉・地域づくりなどの活動」(6.0%)、「文化・趣味・教養」(6.0%)の回答が得られました（市民アンケート問26より）。

このことを踏まえると、郷土史やお祭りなどの伝統文化継承のテーマ活用や、PR手段の工夫、誰もが参加しやすいイベントの企画などが、「学び返し」に多くの市民を巻き込んでいくために有効と考えられます。

カ 生涯学習サポーターへの登録希望

市民に生涯学習サポーターへの登録希望を聞いたところ、「ぜひ登録したい」(2.3%)、「登録してもよい」(35.7%)となっており、あわせて38.0%の方々に登録意向があるという結果が得られました。また、属性別にみると男性で「ぜひ登録したい」(3.0%)、「登録してもよい」(45.9%)、有職(パート/アルバイト以外)で「ぜひ登録したい」(3.0%)、「登録してもよい」(47.1%)となっており、男性でサポーターに登録したい・登録してもよいという意向が高いことがわかります。こうした就労者層の男性なども参加しやすい制度としていくことが「学び返し」の促進にとって有効となると考えられます。一方、女性では、「登録したくない」が62.4%と過半を超えており、女性が登録しやすい・登録したくなる工夫をしていくことが今後必要と考えられます（市民アンケート問28より）。

(3) 生涯学習を実施する上での課題

ア 本市の生涯学習施設利用上の課題

本市の生涯学習施設を利用する上での問題点としては、「利用に関する情報が少ない」が21.7%で最も多く、次に「施設の場所が利用しづらい」(19.9%)、「興味がある講座や教室がない」(18.4%)、「予約が取りにくい」(16.5%)と続いており、広報が最大の課題となっていることがわかります(市民アンケート問7より)。

施設のヒアリングでも、各施設とも、事業の告知・広報の主な手段は施設ごとのホームページやチラシ、ポスターとなっており、生涯学習関係の情報をまとめて広報できる手段がないことが課題となっていました。まずは、こうした広報面での課題改善が求められます。

イ 生涯学習をしていない理由

生涯学習を現在していない理由として最も多いのは「忙しくて時間が取れない」の45.3%で、また「特に必要と考えていない」も28.9%と高くなっています。一方、こうした個人の事情や判断以外での理由をみると、「必要な情報の入手が難しい」が28.9%と最も高くなっています(市民アンケート問8より)。

この点からも、生涯学習の広報・情報提供の強化が求められます。

ウ 充実してほしいサービス

生涯学習活動を盛んにするため充実してほしい市のサービスにおいても、最も多いのは「情報の発信の充実」の56.6%となっています。次に「生涯学習講座の内容・回数等の充実」(55.1%)と続いています(市民アンケート問13より)。

エ 生涯学習全体に対する意見

本市の生涯学習事業についてのご意見・ご提案でも、最も多かったのは、「広報の充実」の26.7%となっています。具体的な意見としては、ホームページの改善(情報量が少ない、ホームページで市内のサークル・チームなどの紹介もしてほしいなど)、SNSの情報拡充や対応プラットフォーム拡大(Facebookもやってほしい)、広報ふちゅうの掲載量拡大、チラシ・ポスターの拡充や商業施設での配布(一部生涯学習施設だけで配っても一般の市民の目にふれない)、市民の口コミ促進をもっと進めるべき、「学び返し」が広報されていないなどがありました。

また、属性別にみると、「広報の充実」については、特に若い世代で意見が多くなっています(市民アンケート問29より)。

第3章 計画の方向性

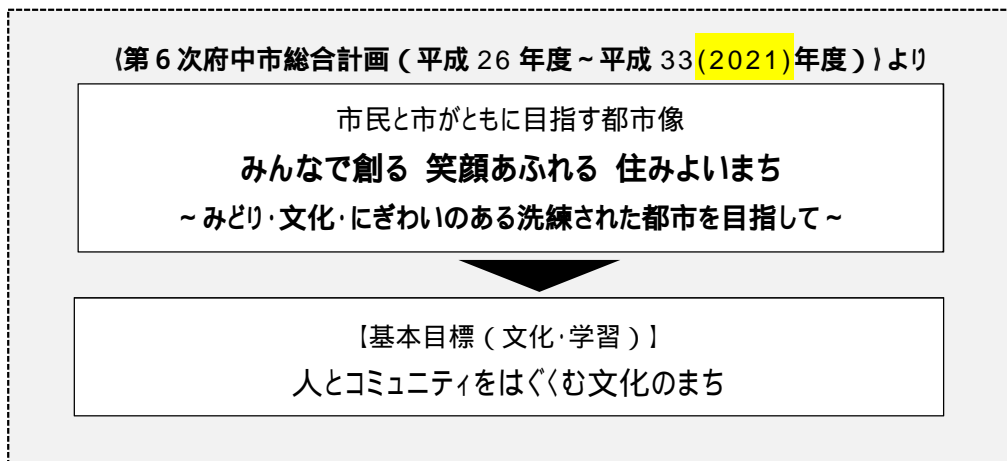
1. 基本理念

本市の生涯学習に関する施策の推進に当たっては、第6次府中市総合計画の文化・学習分野で基本目標に掲げている「人とコミュニティをはぐくむ文化のまち」を基本理念とし、生涯学習に関する施策を推進します。

本市の現状と課題には、活発な市民の生涯学習活動の維持と「市民との協働によるまちづくりを念頭に置いて、ボランティア、NPO、自治会等のコミュニティ活動の活性化に向けた取り組みをすすめること」が挙げられていて、市民協働の推進が、文化・学習分野においても、重要な課題として位置づけています。基本理念は、この課題に応えるものです。

(基本理念)

人とコミュニティをはぐくむ文化のまち



第6次府中市総合計画では、平成26年10月19日、市制施行60周年記念式典で「市民協働都市宣言」を行い、市民との協働を重視し、「みんなで創る」という文言を、市民と市がともに目指す都市像として掲げています。

本計画においても、生涯学習活動の推進にあたり、市民協働を強く意識していくものとしています。

2.基本目標

本計画では、平成 17 年に府中市生涯学習審議会が提言した本市独自の生涯学習についての考え方である「学び返し」の普及と拡大を基盤とした次の目標を基本目標として設定し、それに基づく基本施策を実施します。

第 6 次府中市総合計画では、生涯学習分野における重点プロジェクトとして、「様々な分野で市民の手によってまちが育つことを目指し、地域での多様な生涯学習の場とそれを還元する『学び返し』の機会を充実させるとともに、地域で活躍できる環境づくりを進めます」と規定しています。本計画は、これを踏まえ基本目標を設定しました。

(基本目標)

みんなが学び 地域に返す
人と地域がともに育つ 「学び返し」のまち 府中

基本目標の、「みんなが学び」は、以前から府中市に住んでいる方、新しく住民になった方、高齢者、若年層、就労者、子育て中の方など、市民みんなが学べる環境を整備することを目指しています。

引き続き文言の「地域に返す」は、学習した内容を地域に活かす「学び返し」の考えを普及させるとともに、そのための人材育成、さらには返すための活躍の場を広げることで、生涯学習を基盤とした本市全体の市民協働を進めていく考えを示しています。

続く「人と地域がともに育つ」は、人生 100 年時代を踏まえた個人としての成長と、長く培われた歴史文化があり、ケヤキ並木など豊かな緑に囲まれた、本市ならではの地域の振興を、「学び返し」の地域教育力で実現するという市全体の進むべき方向性を示しています。特に重要なのは、生涯学習を個人の中にとどめるのではなく、府中の地域的な課題の解決、あるいは、府中の特色ある地域づくりを進めていくことにつなげていくことです。これにより、市民協働での豊かなまちづくりを目指します。

このような基本的な考え方に基づき、今回の生涯学習推進計画では、「学び返し」による地域の教育力とそれを基盤とした市民協働力の向上の実現を目指していきます。

この実現を支える 3 つの基本施策を以下のように設定します。

(基本施策)

基本施策 1 誰もが学べる環境づくり

基本施策 2 誰もが活躍できる環境づくり

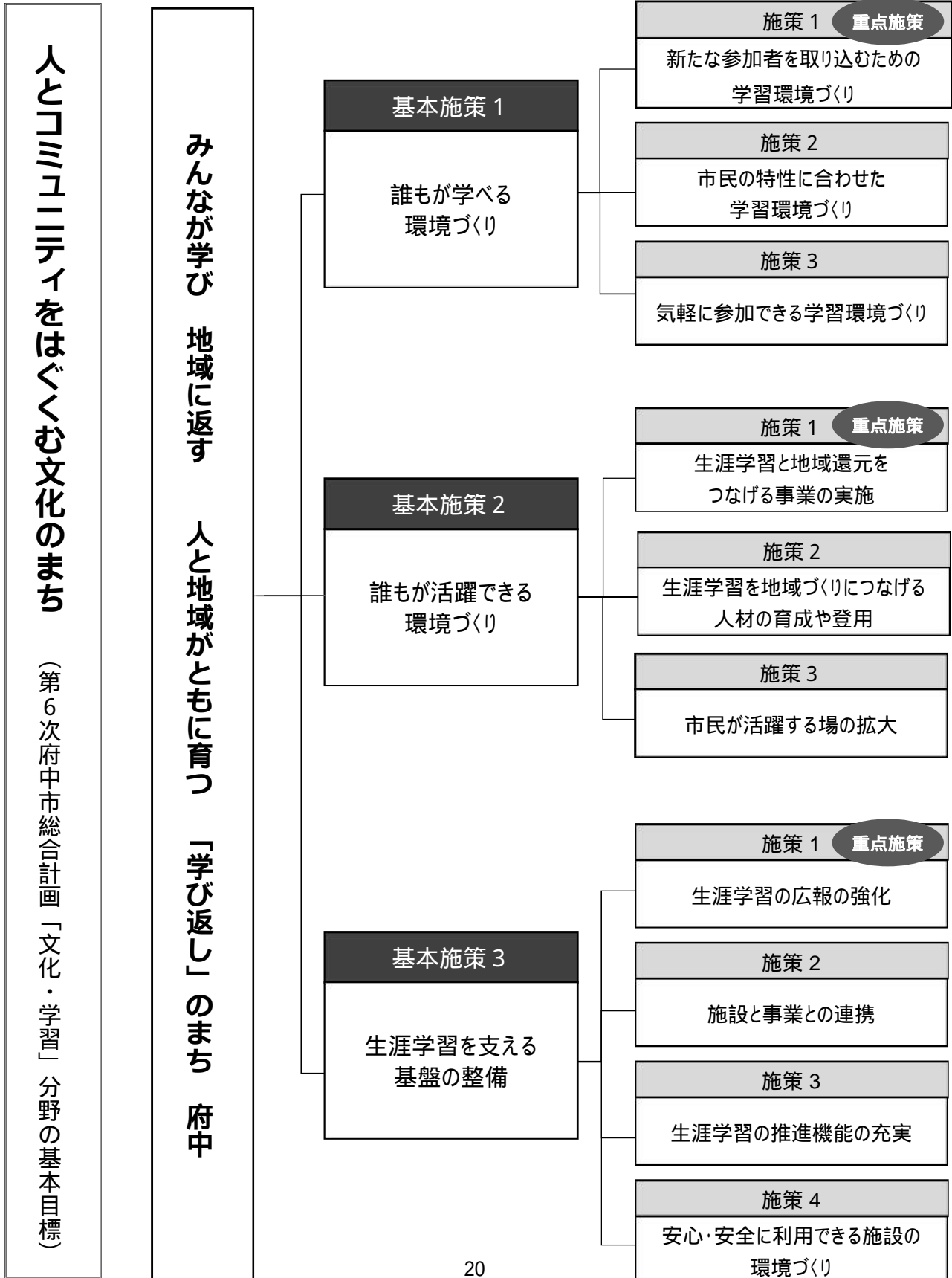
基本施策 3 生涯学習を支える基盤の整備

3. 施策体系

基本理念のもとに基本目標を設定しています。基本目標のもとには3つの基本施策があります。それぞれの基本施策には具体的な施策があり、その中で重点を置くものを重点施策とします。

< 基本理念 >

< 基本目標 >



第4章 具体的な施策の展開

基本施策 1

誰もが学べる環境づくり

(1) 現状と課題

市民の生涯学習活動は、全体としては活発であると言えます。例えば、市の生涯学習講座の参加者をみても、平成29年度は第6次府中市総合計画前期基本計画の現状値（平成23年度）の3倍以上に拡大しています。

一方、市民アンケートで生涯学習センターや文化センター・内公民館などにおける講座や教室の参加者の属性をみると、高齢の方や家事専業の方などの参加率が高い一方、若年層や就労者層の参加率が低い傾向が見受けられます。また、ヒアリング結果からは、居住年数が長く、市の生涯学習事業をよく知っている方の参加率が高い一方、新しい住民の参加が少ない傾向があることもわかりました。

このことから、次の要因を考えることができます。

ア 若年層や就労者層向けの内容の生涯学習事業が少ない。もしくは提供時間や実施場所が不向きである。

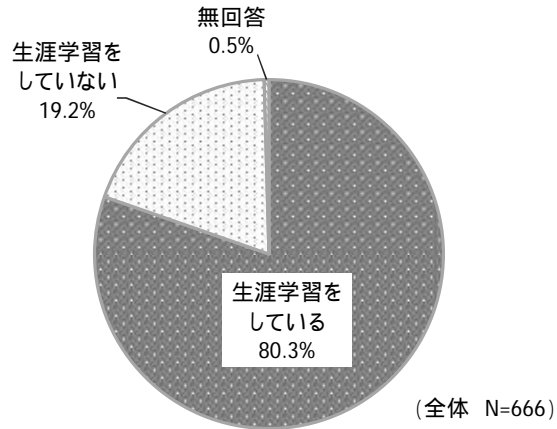
イ 新しい住民に対しての生涯学習事業の情報が十分に伝わっていない。もしくは参加のきっかけがつかみにくい状況がある。

このうち、アについては、生涯学習センターやルミエール府中、市民活動センタープラッツなどは、夜間10時までで開館し、日中、利用が難しい年齢層への配慮はしていますが、今後は、情報提供の工夫や、講座内容など定期的に市民ニーズを捉えた実態の把握に努める必要があります。イの生涯学習に参加できていない層の取り込みについては、広報手段の検討や、初めての方が参加しやすい事業の企画を検討していきます。

一方、高齢者については、今後とも高齢者人口の拡大が続くこと、それに伴い、国の政策として人生100年時代に相応しい生涯にわたっての学び直しの推進などが検討されていること（内閣府「人づくり革命構想」など）から、事業内容の適切な見直しを進めていくこととします。

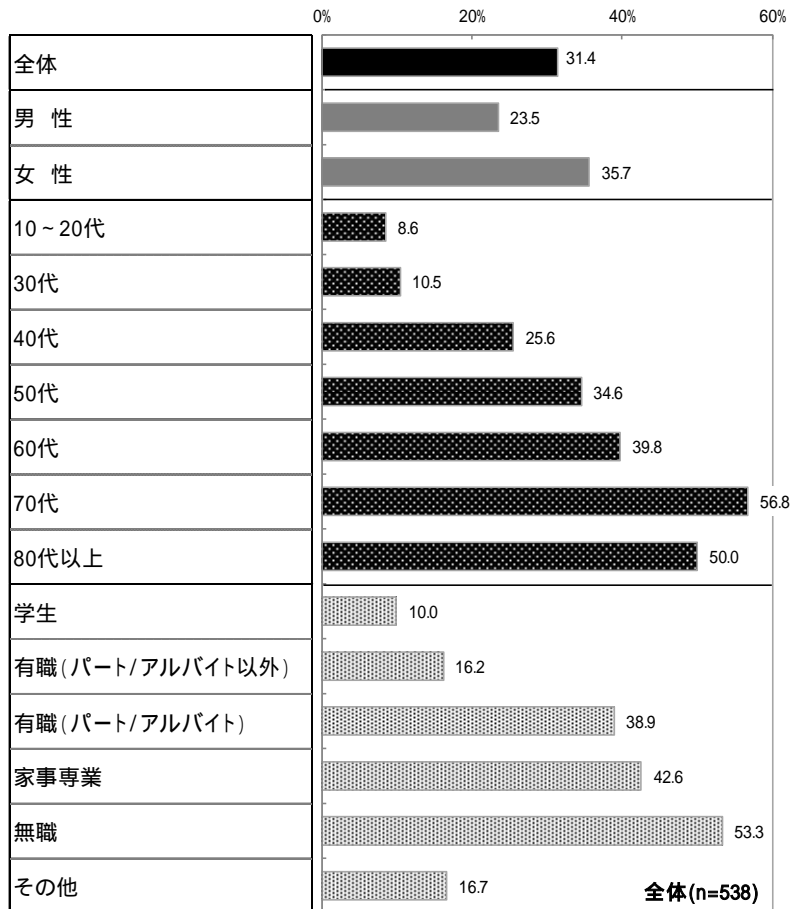
この他、生涯学習関連施設については、市民アンケートにおいて、高齢者などの健康面に不安がある人から、施設の利用しやすさを高めてほしいという意見や、育児中の方から、乳幼児連れでは参加しにくいという意見が出ています。このような方についての対応の充実を図ります。

生涯学習活動の実施率



出典 府中市の生涯学習に関する市民アンケート調査結果

生涯学習センター、文化センターなどの講座や教室での生涯学習実施率



出典 府中市の生涯学習に関する市民アンケート調査結果

(2)めざす姿

年齢や性別、就労の有無などに**かかわらず**、全ての市民が、それぞれの興味・関心
にかなう生涯学習活動に取り組んでいる

仕事や子育て、年齢による身体的変化があっても、生涯学習活動に参加しやすい環
境が整い、それぞれが行いたい生涯学習に取り組んでいる

(3) 施策目標

「誰もが学べる環境づくり」を進めることで、市の生涯学習講座への参加者数を年間
83,000人まで増やしていくことを目標とします。

指標名 (単位)	指標の説明	現状値	平成 38(2026)年度 目標値
生涯学習講座 への参加者数 (人)	生涯学習講座の年間の延べ 参加者数です。増加を目指し ます。	70,187 人 (平成 29 年度)	83,000 人

(4) 施策の方向性

施策1 新たな参加者を取り込むための学習環境づくり

重点施策

現在、生涯学習活動への参加が少ない層の需要を掘り起こすため、対象者ごとに、興味・関心の方向性や、参加しやすい形を把握し、対象者の特性に合わせた生涯学習事業を企画します。

企画にあたっては、生涯学習センター事業としての展開の他、他分野との連携を検討するとともに、多様な市民の意見を講座企画に活かす方法を考えていきます。

新規で実施する取組・強化すべき取組

取組1 生涯学習自体の普及促進を目指した新たなテーマの事業への取組

- 市民の多様なニーズや新たな社会変化に対応した生涯学習テーマの設定・企画

取組2 生涯学習活動に未参加の方、新しい住民向けの事業への取組

- 0 気軽に参加できる講座(無料で体験できる、予約なしで参加できるなど)

取組3 参加率が低いライフステージを取り込む事業への取組

- 若年層・就労者層向け事業の企画(能力拡大につながる夜間帯の事業など)

主な事業

事業名	事業内容	計画期間中の取組内容
生涯学習センター講座	市民の学習ニーズにあった、さまざまな講座を実施する。	生涯学習センターで活動している市民団体や生涯学習サポーターを講師として講座を開催し、市民協働を図る。
生涯学習センタースポーツ施設	体育室の一般開放では、だれでも利用しやすい場を提供する。その他水泳教室などを開催し、技術面でもサポートする。	卓球、バドミントンなどが気軽にできる場や多種多様なトレーニング器具を提供する。 水泳技術と健康増進運動を図るため、障害者専用コース、ワンポイントレッスンなどを実施する。

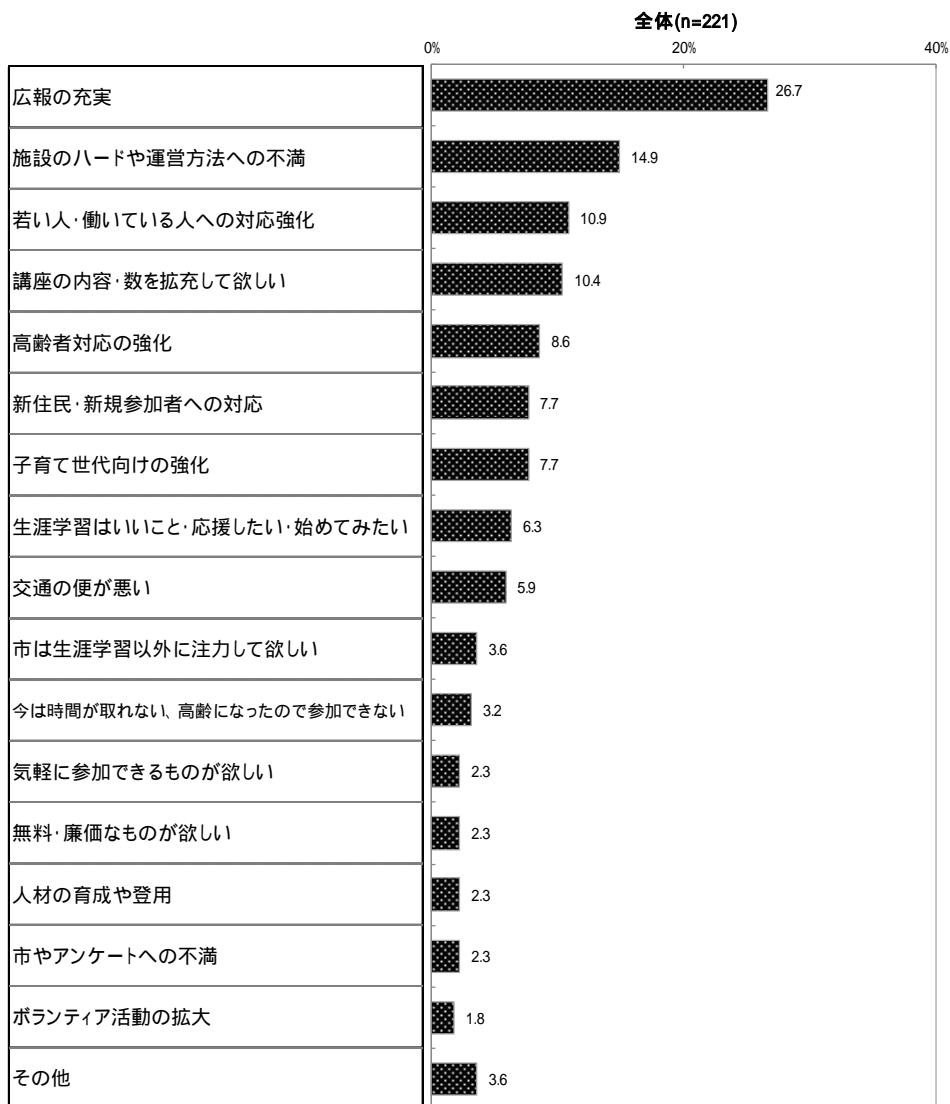
事業名	事業内容	計画期間中の取組内容
公民館講座	市内 11 か所の文化センター内にある公民館で教養講座、趣味実用講座、料理講座などのほかに、親子映画鑑賞会を開催する。また、全市的には、憲法講演会、家庭教育学級を実施する。	市民のニーズに合わせた講座を実施する。また、家庭教育支援の一環として親子のふれあいの場を提供していく。地区公民館講座 60 事業以上を目標とする。
ふちゅうカレッジ 出前講座	市民のリクエストに応じて市職員が講師となり、市政の様々なテーマについて講義する。	市民の多様なリクエストに応じられるよう講座を開催し、市民の教養の向上に努めていく。実施件数 40 件、参加者 1300 人を目標とする。
生涯学習サポート 事業	生涯学習に関するさまざまな情報の提供、相談、紹介、支援・調整に関する体制を整備する。	生涯学習ファシリテーターの活用を図った体制の整備を目指す。
府中囃子伝承普及 事業	市の伝統芸能である府中囃子を永く後世に残すため、備品の貸与や援助などの支援をする。	府中囃子の伝承普及を府中囃子保存会への委託により継続して実施し、平成 29 年度に作成した府中囃子（2 流派）の CD を活用するなど、市内外へ広く普及に努めていく。
武蔵国府太鼓伝承 普及事業	市の郷土芸能である武蔵国府太鼓の普及と伝承のため、市民講習会を実施する。	武蔵国府太鼓講習会を武蔵国府太鼓連盟への委託により継続して実施し、平成 30 年度に作成した武蔵国府太鼓連盟の DVD を活用することで伝承と市内外へ広く普及に努めていく。

施策2 市民の特性に合わせた学習環境づくり

本市の生涯学習事業は、全体としては大変活発な参加がある一方、先に述べたように、若年層や就労者層の参加が少ない傾向が**見受けられます**。また、アンケート調査でも、「若い人・働いている人への対応強化」「高齢者対応の強化」「子育て世代向けの対応強化」など、それぞれのライフステージに合わせて、参加しやすい、参加したくなる生涯学習施策を行ってほしいという声が様々に上がると同時に、生涯学習に現在参加していない人の18.8%が「講座の内容、実施時期、時間が合わない」と回答しています。

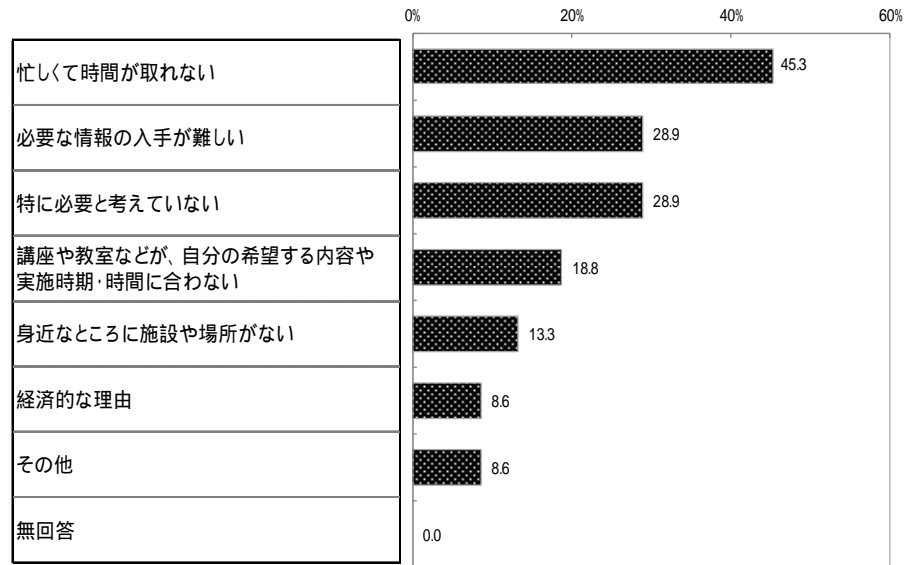
これを踏まえ、若年層、就労者、高齢者、子育て世帯などそれぞれのライフステージに合わせた参加しやすい環境づくりや、興味をもつ内容・テーマでの生涯学習の講座提供を行います。また、これを効果的に実施するため、市民団体などとの連携や協働をさらに進め、市民の力、民間活力の活用を進めます。

市の生涯学習事業についてのご意見、ご提案



「生涯学習」をしていない理由

全体(n=128)



主な事業

事業名	事業内容	計画期間中の取組内容
全市的家庭教育学級	家庭教育を支援するため、保護者等に対する学習の機会を提供する。主に幼児をもつ保護者を対象に、託児を付けた講座を実施する。	託児室も設置し、子育て中の保護者が参加しやすい講座を目指し、毎年4回の実施を目標とする。
知的障害者学級(あすなる学級)	18歳以上の知的障害者を対象に月2回開程度催し、障害者の学習、スポーツの機会を確保する。また、この事業に参加するボランティアの育成、活用を図る。	軽スポーツやボランティア活動、調理実習等の活動を通して障害者の自立を目指す。また、ボランティアが企画する事業も取り入れ、市民協働で実施する。年15回以上の開催を目標とする。
公民館講座【再掲】	市内11か所の文化センター内にある公民館で教養講座、趣味実用講座、料理講座などのほかに、親子映画鑑賞会を開催する。また、全市的には、憲法講演会、家庭教育学級を実施する。	市民のニーズに合わせた講座を実施する。また、家庭教育支援の一環として親子のふれあいの場を提供していく。地区公民館講座60事業以上を目標とする。
けやき寿学園	60歳以上を対象に、政治、経済、文化、芸術など多様なジャンルから、市民のニーズをとらえたプログラムを実施する。	対象者のニーズに合わせて、気軽に参加できる無料の講座を開催する。
ふちゅうカレッジ 出前講座【再掲】	市民のリクエストに応じて市職員が講師となり、市政の様々なテーマについて講義する。	市民の多様なリクエストに応じられるよう講座を開催し、市民の教養の向上に努めていく。実施件数40件、参加者1300人を目標とする。
国際交流サロン運営事業	市民と在住外国人との交流の場の提供や、日本語勉強会を開催し、世界のさまざまな国の人たちが集まって自由に談話をしたり情報を交換できるよう実施する。ボランティアの確保と、気軽に立ち寄れるよう開かれた交流の場を目指す。	在住外国人の増加に対応して、日本語学習や文化交流活動に参加できるボランティアの確保を目指す。また、市民が国際交流に参加し、多文化共生への理解を深められる企画の実施を目指す。

施策3 気軽に参加できる学習環境づくり

市民アンケートでは、7.7%の方が新しい住民や新しい参加者が参加しやすい生涯学習としてほしいという声を上げています。また、現在生涯学習をしていない理由として、「忙しい」という回答が45.3%に上ります。自由回答記述などをみると、「忙しい」という回答の中には、忙しいため定期的に時間が取れない、予約をしても行けるかどうか分からないといった意見も含まれており、全く時間が取れないというより、あらかじめ計画的に時間を空けられないために生涯学習事業の参加に踏み切れない方もかなりいることが想定されます。そのような状況への対応を進めていくことで、生涯学習の参加率を上げていくことができると考えられます。

上記の状況を踏まえ、現在、生涯学習に参加できていない層や新しい住民を巻き込んでいくため、幅広い市民が興味をもつようなテーマの取組およびその広報の充実や、時間がある時に気軽に参加できる講座などを行います。

主な事業

事業名	事業内容	計画期間中の取組内容
生涯学習センター講座【再掲】	市民の学習ニーズにあった、さまざまな講座を実施する。	生涯学習センターで活動している市民団体や生涯学習サポーターを講師として講座を開催、市民協働を図る。
生涯学習センタースポーツ施設【再掲】	体育室の一般開放では、だれでも利用しやすい場を提供する。その他水泳教室などを開催し、技術面でもサポートする。	卓球、バドミントンなどが気軽にできる場や多種多様なトレーニング器具を提供する。 水泳技術と健康増進運動を図るため、障害者専用コース、ワンポイントレッスンなどを実施する。
みんなのスポーツday	体育の日にちなみ、地域体育館を無料開放し、市民だれもがスポーツに親しめるイベントを実施する。	ラリーテニスやトランポリンなどの他、地域体育館の特色を生かした取組を行う。
一般健康教室	生活習慣病、健康増進、健康に関する正しい知識の普及を目的に、講話、相談、試食、試飲などを実施する。	生活習慣病、健康増進、健康に関する正しい知識の普及を推進し、個人の取り組みに止まらず地域全体でソーシャルキャピタルの醸成による健康づくりを目指す。
郷土の森博物館展示会事業	長期休暇、梅まつりなどの時期に展示会を実施し、日頃、見ることのできない展示物にふれることにより、学習の幅を広げる。	多くの方に興味を持っていただける、魅力的な内容の企画展及び特別展を開催し、来館者数の増加につなげる。

(1) 現状と課題

本市の生涯学習事業が、市民協働によるまちづくりにつながっていくためには、学習の成果が学んだ個人の中にとどまるのではなく、市民協働や地域連携に基づく府中の地域振興、豊かなまちづくりにつながるものとなっていく必要があります。この基盤となるのが、平成17年3月に府中市生涯学習審議会が提言した府中市独自の生涯学習の理念である「学び返し＝市民一人ひとりが持っている力を社会に還元していく」という考え方です。第2次府中市生涯学習推進計画では、上記の理念の確立に加え、「学び返し」を、生涯学習分野にとどまらず、地域全体への還元結びつけていくための仕掛け作りとして、生涯学習サポーター制度や生涯学習ファシリテーターの育成・活用が盛り込まれました。この方向性は、その後も、第6次府中市総合計画に継承されています。

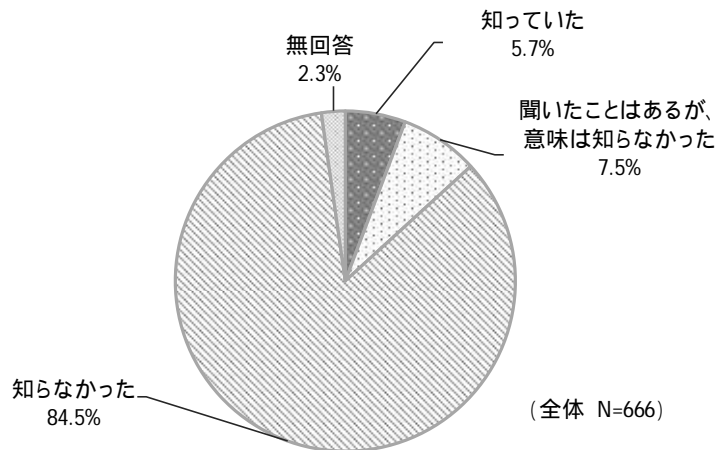
しかし、市民アンケートの結果は、「学び返し」についての認知度が低いことを示しています。例えば、「知っていた」と回答した割合は5.7%、「聞いたことがあるが意味は知らなかった」と回答した割合は7.5%で、市民に「学び返し」の考え方が普及しているとは言えない状況にあります。

「学び返し」は、本市独自の理念です。この考え方を市全体に普及し、それによって、本市の生涯学習を、市民協働による豊かな地域づくりにつなげていくためには、「学び返し」が具体的にどのような活動で、どのような充実感をもたらすものであるかを具体的なエピソードで広報し、興味や共感をもった市民に対して、「学ぶ」場だけでなく、その成果を地域に「返す」場を実際に用意していくことが求められます。具体的な「返す」場としては、生涯学習分野にとどまらない広い範囲での地域づくり活動や地域内の共助の活動における有償・無償のボランティア活動やNPO活動が想定されます。

これらの状況を踏まえ、本計画では、様々な分野で市民の手によってまちが育っている姿を目指します。従って、「学び返し」の機会を充実させること、すなわち市民が地域で活躍できる環境づくりを進めることがポイントになります。

具体的には、市民がもつ知識と技能を地域で積極的に活かせる場を創り出し、地域に還元できる事業を実施することです。さらに学びを求めている市民を学びの場へ積極的にリードできる環境づくりも不可欠になります。

「学び返し」の認知度



出典 府中市の生涯学習に関する市民アンケート調査結果

(2) めざす姿

年齢や性別、就労の有無などに**かかわらず**、全ての市民が、その人ごとに得た知識や技能を、求める人々に還元する生涯学習活動に取り組んでいる

生涯学習活動を基盤とした本市全体での市民協働が活性化している。「学び返し」の理念のもと、生涯学習活動を経験した人が、そこで身につけた知識や技能を、豊かな地域づくりへ還元している

(3) 施策目標

「学び返し」の理念の普及を図り、地域に還元する活躍の場を市民に提供し「学び返し」の実践を進めることで、「学び返し」の認知度を30%以上まで高めていくことを目標とします。

また、「学び返し」活動の1つである生涯学習サポーターへの登録者数を100人以上にすることを目指します。

指標名 (単位)	指標の説明	現状値	平成 38(2026)年度 目標値
「学び返し」認知度	府中市民による「学び返し」の認知度です。上昇を目指します。	5.7% (平成 29 年度)	30%以上

指標名 (単位)	指標の説明	現状値	平成 38(2026)年度 目標値
生涯学習サポーター 登録者数(人)	市民自らが講師となり市民に教えるサポーター活動をしている人数です。増加を目指します。	75 人 (平成 29 年度)	100 人 以上

(4) 施策の方向性

施策1 生涯学習と地域還元をつなげる事業の実施

重点施策

「学び返し」の理念を市民に普及させるとともに、実際の「学び返し」の活動を市内で大きく広げていくため、学習だけではなく、地域に「返す」活動のあり方やそのためのノウハウなども含めて伝えていく事業を実施します。この際には、市内外の各種団体などとの連携についても積極的に検討します。

「学び返し」の理念を広く普及させていくためには、市民の多くが「学び返し」という言葉に触れ、体験ができるような事業を、市全体で実施していくことが有効と考えられます。市内の団体などとの連携を含め、生涯学習と地域還元をつなげる事業を検討します。

新規で実施する取組・強化すべき取組

取組1 学習（学ぶ）と還元（返す）をセットとした事業への取組

- 公共施設での多様なイベント、地域還元におけるボランティア活動とセットとなった生涯学習事業の実施
- 生涯学習活動を行っている人の地域に「返す」活動を推進する制度づくり（生涯学習ファシリテーター・サポーター、生涯学習ボランティア、社会教育関係団体（自主グループ）の活用など）

取組2 市民が学習の成果を地域に還元する契機となる事業への取組

- 生涯学習フェスティバルなどの全市的イベント及び生涯学習系イベントでの市民や市民団体との連携
- ラグビーワールドカップ2019、東京2020大会などの国際的なイベントや国際理解に繋がるイベント、府中の歴史文化や伝統芸能を活用したイベントなど、地域全体を巻き込む大規模イベントの関連事業との連携・協働とその後の取組

主な事業

事業名	事業内容	計画期間中の取組内容
生涯学習ファシリテーターの養成	地域における生涯学習活動の事業企画・運営、また、情報提供や相談に応じるなど、市民の学習活動に対し、支援を行う生涯学習ファシリテーターを養成する。	生涯学習ファシリテーター養成講座を段階ごとに分けて実施する。修了者には地域での活動を促すことで、「学び返し」を实践できるよう支援する。
生涯学習サポーター養成講座	資格や技能を持ち、登録を検討している市民を対象に、より優れた講師を育成するため養成講座を実施する。	生涯学習サポーターの指導力向上を図り、より円滑な「学び返し」を実現する。年間修了者数20人を目標とする。

事業名	事業内容	計画期間中の取組内容
生涯学習ボランティアの養成講座	「学び返し」の一環として、生涯学習ボランティア養成講座を開催する。	生涯学習ボランティア養成講座、生涯学習ファシリテーター・サポーター養成講座を開催し、ボランティアの養成に努める。各講座とも年1回以上の開催を目標とする。
生涯学習ボランティアの活用事業	講座の企画運営、講師など生涯学習ボランティアを活用する。	指定管理者と生涯学習ボランティアの協働により、「学び返し」と市民協働を目指し、年間20講座程度の開催を目標とする。
生涯学習フェスティバル	市民の生涯学習に対する理解を深め、生涯学習活動全体の推進を図る。引き続き、自主的な活動を推進するため、市民による実行委員会形式で開催する。	市、実行委員、指定管理者の三者による協働事業として実施。来場者数12,000人を目標とする。

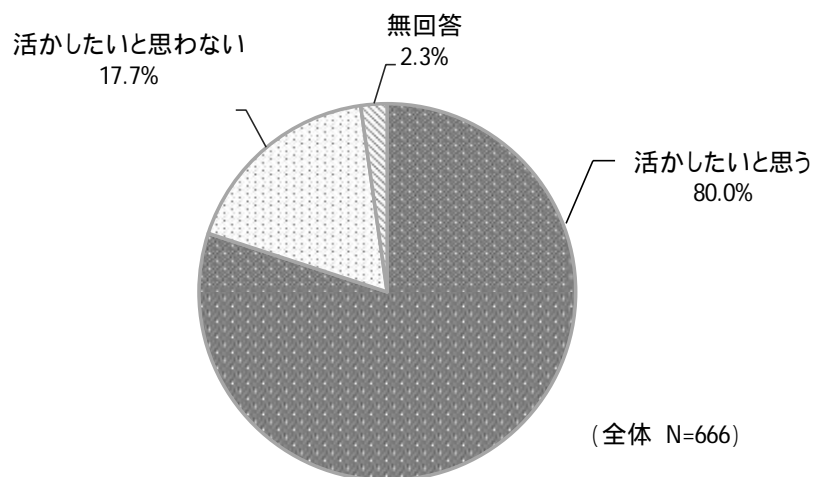
施策2 生涯学習を地域づくりにつなげる人材の育成や登用

市民アンケートによると、「学び返し」の認知度や実施率自体は低い水準にとどまっています。一方、「生涯学習を通じて身につけた知識・技能や経験」を自分以外のために活かしたいという回答の比率が80.0%と大変高くなっており、具体的な機会があれば、多くの市民が、生涯学習活動の成果を地域に還元する活動に参加する可能性は高くなると考えられます。

このような活動の普及については、第2次府中市生涯学習推進計画より、従前の生涯学習リーダーバンクを発展させた生涯学習サポーター登録制度を開始するとともに、生涯学習ファシリテーターの育成を実施しています。また、生涯学習センターでは、平成16年以來、生涯学習ボランティアが市と協働して市民の生涯学習活動を支援し、活躍しています。こうした人材の育成を今後も継続するとともに、より間口を広げ、多くの人々が「学び返し」を始められるよう、「他の人の生涯学習活動を支援するためのノウハウやスキル(教え方など)」、「地域に還元していく活動を行っていくためのノウハウやスキル(教え方など)」など、学ぶだけでなく、「返す」ことも身につけられる講座などを企画していきます。

また、活動の際には、生涯学習センターだけでなく、他の施設との連携や、市内のNPO団体、社会教育関係団体などとの協働、市内の小中学校における地域連携活動(府中版コミュニティ・スクールや学校の地域学習活動など)との協働を進めます。

生涯学習の成果を「自分以外のために」活かしたいと思う比率



出典 府中市の生涯学習に関する市民アンケート調査結果

主な事業

事業名	事業内容	計画期間中の取組内容
生涯学習ファシリテーターの養成 【再掲】	地域における生涯学習活動の事業企画・運営、また、情報提供や相談に応じるなど、市民の学習活動に対し、直接的あるいは間接的に支援を行う地域の担い手（ファシリテーター）を養成する。	生涯学習ファシリテーター養成講座を段階ごとに分けて実施する。修了者には地域での活動を促すことで、「学び返し」を実践できるよう支援する。
生涯学習サポーター養成講座 【再掲】	資格や技能を持ち、登録を検討している市民を対象に、より優れた講師を育成するため養成講座を実施する。	生涯学習サポーターの指導力向上を図り、より円滑な「学び返し」を実現する。年間修了者数20人を目標とする。
生涯学習ボランティアの養成講座 【再掲】	「学び返し」の一環として、生涯学習ボランティア養成講座を開催する。	生涯学習ボランティア養成講座、生涯学習ファシリテーター・サポーター養成講座を開催し、ボランティアの養成に努める。各講座とも年1回以上の開催を目標とする。
市民企画講座	「学び返し」を推進するため、講座の企画を提案・実施する市民、または市民の団体を募集し、生涯学習センターで開催する。	知識・経験・企画意欲のある市民または市民団体の企画を積極的に採用し、講座の充実を図り、また「学び返し」の実践の場として提供する。年間講座数6~7講座程度を目標とする。
ふちゅうカレッジ 100単位	対象となる学習講座を受講し、100単位を修得された方に生涯学習士の称号と修了証を授与する。	地域社会に学びを還すことを目的としているため、「学び返し」につながるように市民の知識や経験の機会の確保に努める。
ジュニアリーダー講習会	小学4年生から高校生までを対象に野外活動を通して、地域のリーダー養成を図るため、キャンプ訓練や宿泊講習会などを実施する。	青少年が自然体験や社会体験を重ねるなかで、異年齢層との交流を通じ、他者への思いやりや逞しさを身に付けるとともに、地域で活躍するリーダーを養成する。
コムスポ協力者の育成	これまであまりスポーツになじみのなかった市民に、スポーツの楽しさを伝え、継続的な活動ができるように指導できる人材（コムスポ協力者）を育成する。	コムスポ協力者の資質向上のため、研修会を実施する。 府中コムスポ協力者研修会 1回
お話ボランティア養成講座	図書館や地域で絵本の読み聞かせを行うボランティアの資質向上を図る。	市民対象の「読み聞かせ講習会」を毎年実施し、絵本の読み聞かせやストーリーテリングなどを行える人材を育成する。また、図書館のおはなしボランティアを対象にした「ステップアップ講座」も継続して実施し、ボランティアの人材育成と能力向上につなげる。
美術館ボランティアの育成	NPOと美術館との協働により、研修会や教育普及事業など様々な事業活動の機会を提供し、美術館ボランティアを育成する。	研修会やワークショップなど、様々な教育普及事業活動の機会を提供し、美術館ボランティアを育成する。

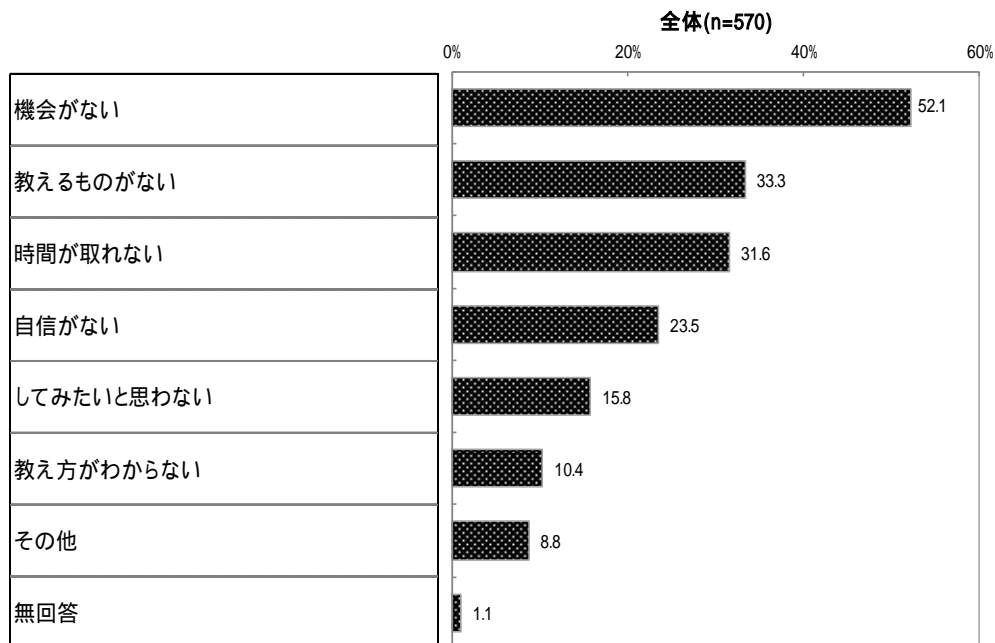
「府中コムスポ」とは、府中市民の健康維持増進及び地域コミュニティの活性化を目的としたスポーツ・レクリエーション活動を指す。
「協力者」とは、府中コムスポに協力し、生涯スポーツの普及に努めることができる者を指す。

施策3 市民が活躍する場の拡大

「学び返し」の活動が広まっていくためには、そのための学習の機会だけではなく、学習活動で身につけたものを発揮できる活躍の場も、併せて拡大していくことが求められます。例えば、平成 28 年度に 68 人まで登録者数が増加した生涯学習サポーター登録制度ですが、登録はしたものの、実際に活躍する場が少ないという声があります。また、生涯学習ファシリテーターについても、質の高い人材教育は行われてきたものの、その後の実践の場での活用には至っていません。市民アンケートでも、「学び返し」をしたことがない理由として、「機会がない」という回答が 52.1%と、「教えるものがない」という回答の 33.3%を大きく上回っています。さらに、「生涯学習」で身につけた知識・技能や経験を、自分以外のために活かすには、「知識・技能や経験を活かす人と活動の場を結ぶ人の充実」が必要だという回答が 51.0%と半数を超えています。

こうしたことを踏まえ、生涯学習活動を行ってきた市民が、身につけた能力を発揮できる活躍の場の拡大を積極的に図っていくこととします。このためには、生涯学習センターなどの生涯学習系施設だけでなく、他の分野の公的施設や機関との連携、NPO 団体や社会教育関係団体、生涯学習ボランティアなど、実際に地域に還元する活動を行っている団体や場との連携が極めて重要となります。加えて、市内の市民協働の活性化を担っている市民活動センタープラッツとの密接な連携も必要です。施策の実施にあたっては、こうした連携や協働を進めます。

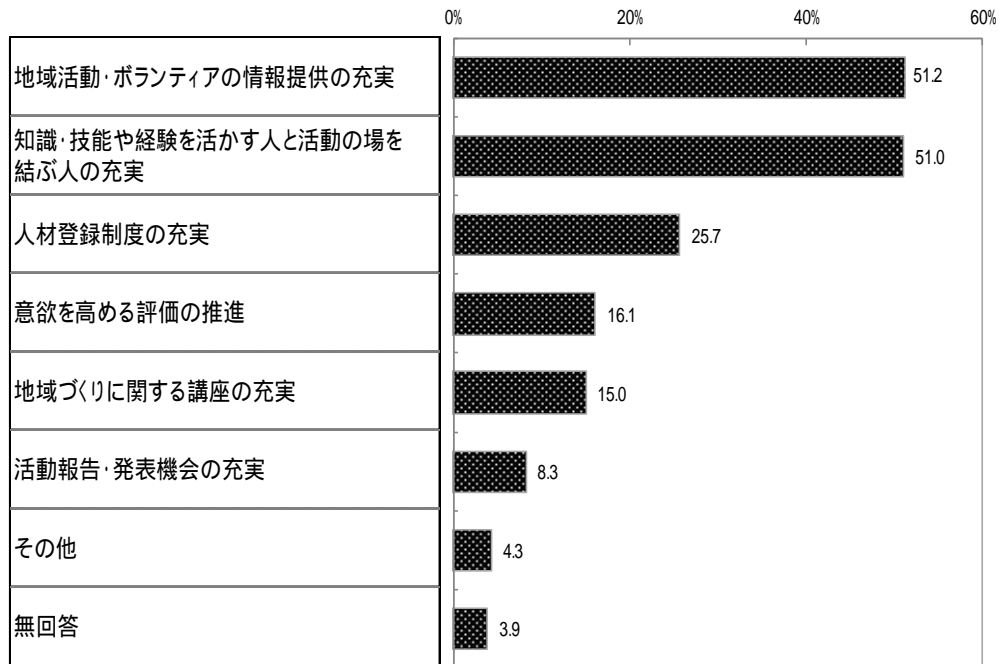
「学び返し」をしたことがない理由



出典 府中市の生涯学習に関する市民アンケート調査結果

生涯学習活動の成果を自分以外のために活かすために必要なこと

全体(n=533)



出典 府中市の生涯学習に関する市民アンケート調査結果

主な事業

事業名	事業内容	計画期間中の取組内容
生涯学習ボランティアの活用事業 【再掲】	講座の企画運営、講師など生涯学習ボランティアを活用する。	指定管理者と生涯学習ボランティアの協働により、「学び返し」と市民協働を目指し、年間 20 講座程度の開催を目標とする。
生涯学習フェスティバル 【再掲】	市民の生涯学習に対する理解を深め、生涯学習活動全体の推進を図る。引き続き、自主的な活動を推進するため、市民による実行委員会で開催する。	市、実行委員、指定管理者の三者による協働事業として実施。来場者数 12,000 人を目標とする。
市民活動団体の活動支援	市民活動センターに登録している団体の活動機会の提供に努めるとともに、地域との交流を図る。	多様なフェーズの市民・団体が交流できる場を提供し、市民同士のネットワーク構築を目指す。各種イベント等で団体が活動する機会を提供し、団体活動の活性化を目指す。
学校支援ボランティア	世代を超えたふれあい活動の実施、地域の伝統的な文化や技能の伝承、校庭の整備・花壇の世話など、学校の環境整備への協力など、地域社会が学校に対して支援していくボランティア活動を広げていく。	事業の継続。
市民スポーツ教室	スポーツ推進委員並びに府中市体育協会が中心になり、スポーツ実施率の向上を目的に幅広い年齢の市民を対象としたスポーツ教室を実施する。	ジュニアからシニアにわたるまで、市民がそれぞれのライフステージに合わせて活動できるスポーツ教室を開催することでスポーツ機会の拡充を図る。

(1) 現状と課題

本市は、生涯学習に関わる施設整備が進んでいることにより、本市の活発な生涯学習活動を支えてきました。しかし、先行して施設整備が進んだ結果、次第に老朽化への対応などが必要となってきています。今後は、第2次府中市公共施設マネジメント推進プランを踏まえつつ、対応方針を定めていく必要があります。

一方、運用面では、大きく3つの課題が指摘されています。1つ目は、生涯学習の広報の課題です。既に紹介した市民アンケートの結果でも、生涯学習事業の広報をもっと強化してほしいという声が非常に多くなっており、対応が求められます。新しい住民や、若年層、就労者層などでは、市の事業情報がなかなか入ってこないという意見もあります。

現在、各事業の広報は、施設それぞれのチラシやホームページなどによるものが中心となっており、全体的な広報は、広報ふちゅうでの一部掲載や、市のホームページでの開催情報の一覧告知に限定されています。今後は、本市の生涯学習活動全体の魅力を効果的に伝え、市民一人ひとりを生涯学習活動に巻き込んでいく積極的な広報の実施が求められます。

2つ目は、生涯学習関連の各施設・事業間の連携が希薄であることです。現状では、施設それぞれが他施設や団体などとの連携や協働を進めることが基本となっており、全体としての連携・協働を図る状況にはなっていません。市民・地域との協働や連携をこれまで以上に拡大し、生涯学習の活性化を図っていくためには、関連施設・関連事業の連携を効果的に強化していくことが求められます。

3つ目として、高齢者の方や乳幼児連れの方など、施設利用や生涯学習活動への参加にハードルのある方への対応という課題があります。市民だれもが生涯学習活動を楽しむためには、施設の利用しやすい環境づくり、サービスの拡充など、利便性や使いやすさの向上を検討していく必要があります。

(2) めざす姿

全ての市民が、安心して生涯学習活動の施設を利用している
生涯学習の魅力を伝える広報の効果的な実施により、多くの市民が生涯学習活動に関心を持ち、全ての市民が必要な情報を取得できている

(3) 施策目標

市の生涯学習の中核施設である生涯学習センターの利用者満足度を90.0%以上に維持することを目標とします。また、より多くの市民が、必要な時に必要な情報を取得できるよう広報を充実させ、市の生涯学習に関する情報を市からの情報発信により取得できている市民の割合を90.0%以上にすることを目標とします。

指標名 (単位)	指標の説明	現状値	平成 38(2026)年度 目標値
生涯学習センターの利用者満足度 (%)	生涯学習活動の拠点である府中市生涯学習センターの利用者の満足度です。90.0%以上の維持を目指します。	91.0% (平成 29 年度)	90.0%以上

指標名 (単位)	指標の説明	現状値	平成 38(2026)年度 目標値
市の生涯学習に関する情報を市からの情報発信により取得できている市民の割合 (%)	市の生涯学習に関する情報を市からの情報発信により取得している市民の割合です。90.0%以上を目指します。	79.1% (平成 29 年度)	90.0%以上

(4) 施策の方向性

施策1 生涯学習の広報の強化

重点施策

市民アンケートで、本市の生涯学習施策について最も意見が多かったのは「広報」についてです。また、若年層や就労者層、新しい住民は、市からの生涯学習に関する情報が得られないと答えています。これを踏まえ、生涯学習の基盤を支える分野での重点施策として、広報の強化を検討します。

広報にあたって、市民アンケートなどでは、ホームページやSNSなどのデジタルでの広報の強化とともに、多くの人の集まる場所におけるチラシ配布やポスター掲示などの広報の拡大を求める声も大きく上がっています。これを踏まえて、様々な媒体を活用した広報の強化を目指します。

新規で実施する取組・強化すべき取組

取組 多様な媒体を使った広報事業への取組

- 駅周辺施設、商業施設などでのプロモーションの展開
- ラグビーワールドカップ2019、東京2020大会など、地域全体を巻き込む大規模イベントの関連事業の場を使った広報活動
- 生涯学習普及のための一元的なデジタル広報体制の整備（SNSの活用、社会教育関係団体等の「学び返し」活動の紹介、学習活動（学ぶ）と地域に還元する活動（返す）をマッチングさせるホームページの作成などを含む）
- 地域のテレビなどとの連携の充実

主な事業

事業名	事業内容	計画期間中の取組内容
広報媒体を活用した生涯学習のPR	各主管課の依頼に基づいて生涯学習関連事業を広報ふちゅうなどを通じて、市民に知らせる。	各主管課の依頼に基づいて広報ふちゅうなどに生涯学習関連事業の内容を掲載する。
インターネットホームページ情報提供	市のホームページに積極的に生涯学習情報の掲載を行い、市民が必要な情報を入手できるようサービスの向上を図る。	市のホームページを充実させ、市の生涯学習に関する情報を市からの情報発信により取得している市民の割合が90.0%以上となることを目指します。
外国語版情報誌の発行	在住外国人向けに催し案内や生活上の情報を盛り込んだ冊子（英文併記）を発行する。	定期的な発行を継続し、在住外国人への効果的な情報発信を目指す。
市内生涯学習施設間連絡会議	市内の生涯学習関連施設のイベント情報や市民ニーズの動向など情報交換をする。	生涯学習関連の施設の担当者により、イベントの情報交換などに加えて、「市民文化の日」の企画について協議する。

施策2 施設と事業との連携

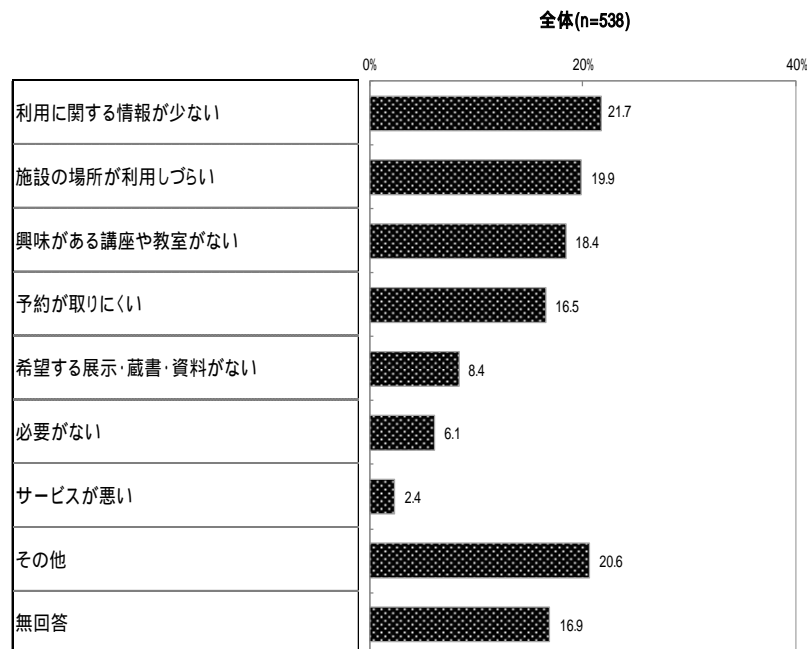
現在、生涯学習事業の広報は、それぞれの施設や事業で行っているものが主体となっており、多種多様に行われている各活動を、市民が、どのような内容でどのような面白さがあるかも含めて調べ、選択することが難しくなっています。市民アンケートの結果では、「生涯学習をしていない理由」として、「必要な情報の入手が難しい」という回答が28.9%、市の生涯施設を利用する上での問題点として「利用に関する情報が少ない」が21.7%と多く、市の生涯学習の普及において、こうした全体広報の不足が大きな問題となっている可能性が高いと考えられます。

また、「講座や教室などが、自分の希望する内容や実施時期・時間に合わない」(18.8%)、「身近なところに施設や場所がない」(13.3%)という回答も、「生涯学習をしていない理由」として多くなっていますが、こうした課題については、各生涯学習系施設間、あるいは市の生涯学習系施設と市民団体などとの連携を進め、講座内容を共有し、市民に発信するなど、地域ニーズを捉えた事業展開が求められます。

同様の傾向は、「生涯学習を行う施設等を利用する上での問題点」についての回答でもみられ、「利用に関する情報が少ない」が21.7%とトップとなっている他、「施設の場所が利用しづらい」、「興味がある講座や施設がない」といった回答が多くなっています。

これを踏まえ、地域全体での学習事業についての連携・協働の拡大など、生涯学習事業全体を横串で支えていく施策を展開します。

施設等を利用する上での問題点



出典 府中市の生涯学習に関する市民アンケート調査結果

主な事業

事業名	事業内容	計画期間中の取組内容
生涯学習情報誌の発行	生涯学習ボランティアの編集で、市民の学習活動状況や生涯学習センターでのイベントを取り上げ「生涯学習だより」を発行する。 今月のテーマ、定期講座、今月のおすすめの本など情報を掲載し、生涯学習センターの情報を提供する「生涯学習センター通信」を発行する。	生涯学習ボランティア編集による「生涯学習だより」について、指定管理との協働により発行する。年4回の発行を目指す。 「生涯学習センター通信」を毎月発行する。
大学との連携	東京農工大学、東京外国語大学、明治大学と連携し、教養セミナーなどを実施して、学習機会の場を提供する。	各大学との連携講座として実施する。各大学と年1回以上の連携講座の実施を目標とする。
広報媒体を活用した生涯学習のPR 【再掲】	各主管課の依頼に基づいて生涯学習関連事業を広報ふちゅうなどを通じて、市民に知らせる。	各主管課の依頼に基づいて広報ふちゅうなどに生涯学習関連事業の内容を掲載する。

施策3 生涯学習の推進機能の充実

市内の生涯学習事業全体を通じた施策調整や広報などを積極的に展開していくにあたっては、庁内関連部署の連携を実施するとともに、NPO団体や社会教育関係団体などの連携を推進していく必要があります。これを実現するため、庁内外の連携を、PDCAサイクルを踏まえ、逐次改善していきます。

こうした調整・連携については、**これまで**育成してきた生涯学習ファシリテーターの活用も検討していきます。

主な事業

事業名	事業内容	計画期間中の取組内容
生涯学習サポート事業 【再掲】	生涯学習に関するさまざまな情報の提供、相談、紹介、支援・調整に関する体制を整備する。	生涯学習ファシリテーターの活用を図った体制の整備を目指す。
市内生涯学習施設間 連絡 会議 【再掲】	市内の生涯学習関連施設 のイベント情報 や市民ニーズの動向など情報交換をする。	生涯学習関連の施設の担当者により、 イベントの情報交換などに加えて、「市民文化の日」の企画について協議する。

施策4 安心・安全に利用できる施設的环境づくり

先に述べたように、市民アンケートでは、高齢者や乳幼児連れの方などから利用しやすい環境づくりを求める声がありました。また、生涯学習センターも老朽化対策を考える時期が迫りつつあります。

こうした状況および第2次府中市公共施設マネジメント推進プランを踏まえ、安心・安全に利用できる施設的环境づくりを、サービス面の改善も含め、積極的に行います。

主な事業

事業名	事業内容	計画期間中の取組内容
生涯学習センターの開放	学習を目的に託児を必要とする団体（サークル）に託児室を無料で提供する。	託児を必要とする団体への周知・情報提供を図り、生涯学習センター内施設を利用する際に、託児を必要とする団体が託児室を併用利用する場合、託児室を無料で提供する。
児童館の活用	乳幼児を育児中の保護者が利用しやすいように、キッズスペースを設置し、一層の活用を図る。	児童館の利用活性化を図るため、比較的午前中の利用が多い未就学児の利便性を考えるとともに、多くの小学生参加が見込まれるサークルの活動については、子供たちのニーズに合った企画・実施を心がけていく。
放課後子ども教室	子どもたちの安全で健やかな居場所づくりを推進するため、放課後などに小学校施設を活用した、遊びの場・学びの場を提供する。	市内市立小学校 22 校で実施する。

第5章 計画の実現に向けて

1. 計画の推進体制

全体の推進体制

本市では、平成15年3月に、市民の生涯学習の振興を図るための審議・建議の機関として府中市生涯学習審議会を条例により設置しています。今回の計画においても、主管課である文化生涯学習課を中核の推進組織としつつ、その進行状況および評価について、定期的に府中市生涯学習審議会において審議を実施するとともに、必要に応じて、その建議を受けていくものとします。

市民との協働による推進

本市は平成26年10月に、市民と市が一体となって市民協働を推進していくことを広く表明するため、「市民協働都市宣言」を行いました。平成26年度を初年度とする第6次府中市総合計画では「協働」をテーマに策定し、目指す都市像「みんなで創る 笑顔あふれる 住みよいまち」の実現に向けて、「市民協働」を積極的に推進しています。

生涯学習の推進にあたっては、市民の学習意思を尊重するとともに、施策の推進・評価や施設運営・事業企画への参加など、市民の力、地域の力は必要不可欠です。市民、地域、団体、学校、企業など、生涯学習に関わる全ての人々と市が連携を深めながら、積極的に取り組むことが大変重要になります。各主体がそれぞれの垣根を超えて主体的に連携・協力し、生涯学習の推進に取り組めるような環境づくりを進めます。

市内部のマネジメントによる推進

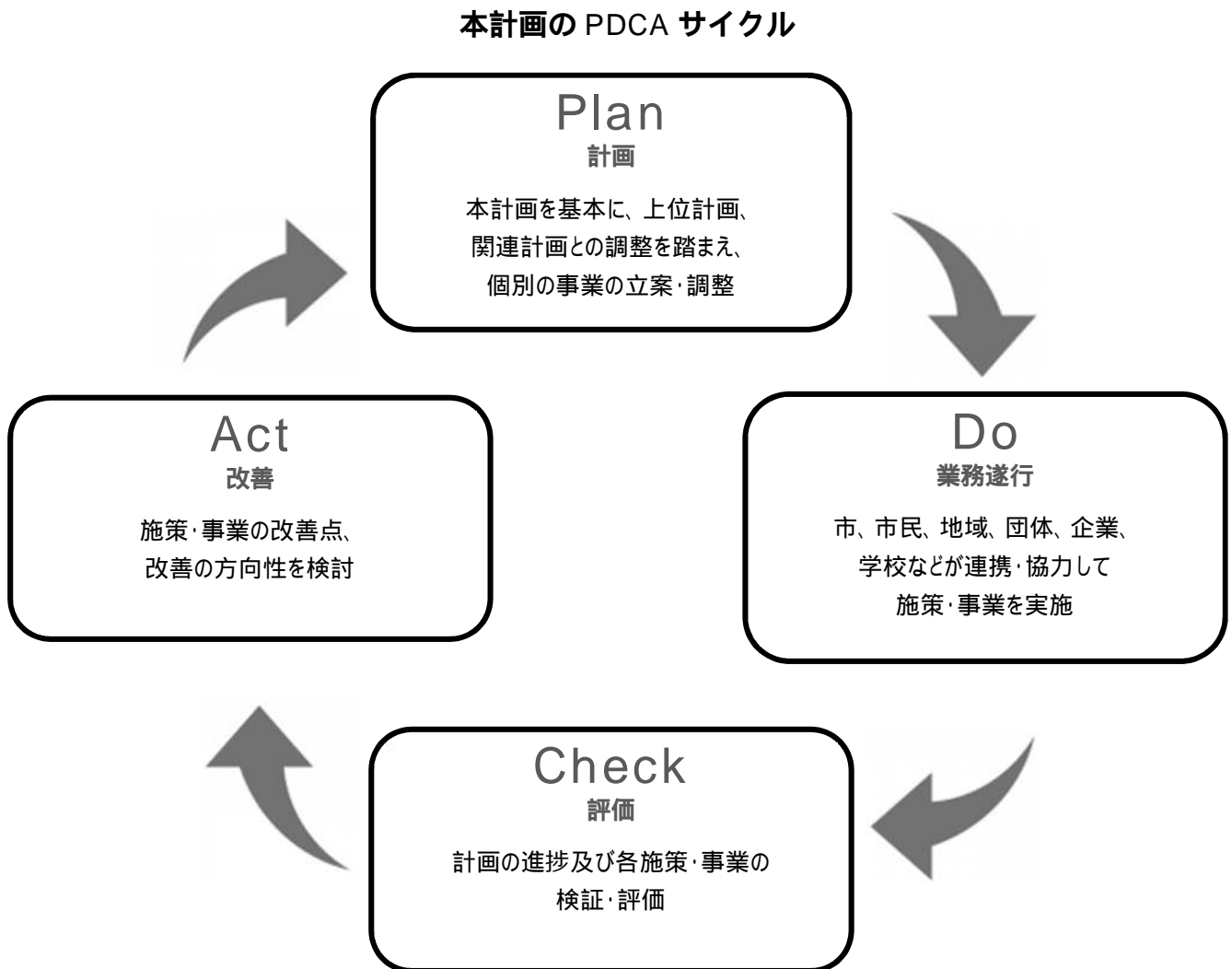
本計画には、生涯学習部門だけでなく、様々な関係部門が担当する施設や事業も含まれています。計画を確実に推進していくためには、庁内の枠組みを超えた相互連携を図りながら取り組んでいくことが重要になります。

市としての部体系的な学習機会の提供や事業の実施など、庁内担当課との連携・協力を進め、また各課が所管する施設間の連携を高めることで、効果的に事業を推進していきます。

2 . 計画の進行管理

本計画の施策・事業の進捗状況や成果を把握するためには、施策・事業の内容について定期的に確認・点検を行い、必要に応じて改善をしていくことが重要です。

本計画を具体的な事業計画に反映させる P l a n（計画） それを専門的な知見をもって実施していく D o（業務遂行） 遂行結果を確認する C h e c k（評価） 評価を基に事業や計画を見直す A c t（改善）のサイクルを確実に推進していきます。また、毎年各基本施策における事業の実施状況を調査し、進捗管理を行っていきます。



資料編

- 1 府中市生涯学習審議会委員名簿
- 2 府中市生涯学習審議会開催経過
- 3 府中市の生涯学習に関する市民アンケート調査結果

1 府中市生涯学習審議会委員（8期）名簿

（敬称略）

分野	氏名	所属	備考
学識経験者	きうち なおみ 木内 直美	NPO法人府中市民活動支援センター スタッフ	
学識経験者	さの ひろし 佐野 洋	東京外国語大学学長特別補佐(市民講座・ アラムナイ・基金等)、大学院総合国際 学研究院・教授	
学識経験者	てらたに ひろみ 寺谷 弘壬	青山学院大学名誉教授	会長
学識経験者	ながはた まこと 長畑 誠	明治大学教授	
教育	なかにし ゆうこ 中西 裕子 (平成30年3月31日まで)	若松小学校校長	
教育	おしだり るりこ 忍足 留理子 (平成30年4月1日から)	府中第六小学校校長	
ファシリテーター	みやけ あきら 三宅 昭	生涯学習ファシリテーター養成講座上級 修了者	副会長
ボランティア	おくの ひでき 奥野 英城	生涯学習ボランティア 悠学の会	
自主グループ	いわくぼ さなえ 岩久保 早苗	中央文化センター自主グループ連絡会 副会長	
P T A	そうま いっぺい 相馬 一平	小柳小学校P T A会長	
スポーツ	おおたに ひさとも 大谷 久知	NPO法人府中市体育協会専務理事	
文化	なかむら ようこ 中村 洋子	府中市芸術文化協会副会長	
福祉	きたしま あきお 北島 章雄	府中市第4地区民生委員児童委員協議会 副会長	
公募	きし さだお 岸 定雄		
公募	せきぐち みれい 関口 美礼		
公募	にしはら たまし 西原 珠四		

2 府中市生涯学習審議会（8期）開催経過

回	開催日	審議内容
第1回	平成29年4月26日（水）	<ul style="list-style-type: none"> ・委員委嘱、委員紹介 ・正副会長選出 ・今後の会議の進め方について
第2回	平成29年6月29日（木）	<ul style="list-style-type: none"> ・答申の作成について
第3回	平成29年8月9日（水）	<ul style="list-style-type: none"> ・答申の作成について
第4回	平成29年10月26日（木）	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習に関する市民アンケート(案)について
第5回	平成29年12月18日（月）	<ul style="list-style-type: none"> ・府中市の生涯学習に関する市民アンケート調査(案)の最終確認
第6回	平成30年3月23日（金）	<ul style="list-style-type: none"> ・府中市の生涯学習の現状と課題について ～府中市の生涯学習に関する市民アンケート調査結果の速報値報告～
第7回	平成30年4月25日（水）	<ul style="list-style-type: none"> ・第3次府中市生涯学習推進計画案 検討の方向性について
第8回	平成29年6月28日（木）	<ul style="list-style-type: none"> ・第3次府中市生涯学習推進計画案について
第9回	平成30年7月23日（月）	<ul style="list-style-type: none"> ・第3次府中市生涯学習推進計画案について
第10回	平成30年8月22日（水）	<ul style="list-style-type: none"> ・第3次府中市生涯学習推進計画案について
第11回	平成30年9月14日（金）	<ul style="list-style-type: none"> ・第3次府中市生涯学習推進計画案について ・答申について

3 府中市の生涯学習に関する市民アンケート調査結果

(1) 調査概要

1. 調査の目的

平成 21 年度に策定した「第 2 次府中市生涯学習推進計画」が平成 30 年度で 10 年間の計画期間を終えるにあたり、今後の市民の皆さまの生涯学習の支援の更なる充実を目指した「第 3 次府中市生涯学習推進計画」の策定に向け、今後の施策を進めるうえでの基礎資料として、市民の皆さまの生涯学習の状況を把握し、市の施策に対するご意見を伺うため、アンケート調査を実施した。

2. 調査の対象

府中市に在住の満 18 歳以上の方の中から、2,000 人を無作為に抽出した。

3. 調査の期間

平成 30 年 1 月 17 日（水）～平成 30 年 2 月 16 日（金）

4. 調査の手法

郵送により配布し、郵送により回収。

5. 回収数・回収率

配布数	2,000 票
回収数	666 票
回収率	33.3%

6. 調査結果の見方

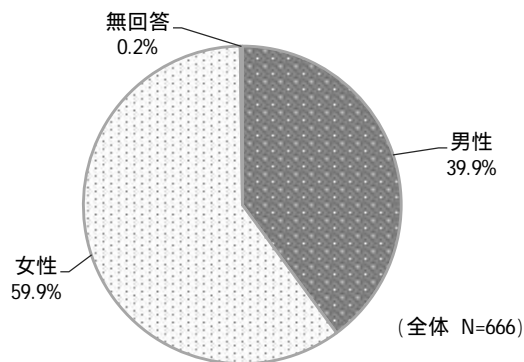
- (1) 回答は、それぞれの質問の回答者数を母数とした百分率(%)で示している。それぞれの質問の回答者数は、全体の場合は N、それ以外の場合には n と表記している。
- (2) %は小数点以下第 2 位を四捨五入し、小数点以下第 1 位までを表記している。したがって、回答の合計が必ずしも 100%にならない場合がある。
- (3) 回答者が 2 つ以上回答することのできる質問(複数回答)については、%の合計は 100%を超えることがある。

(2) 調査結果

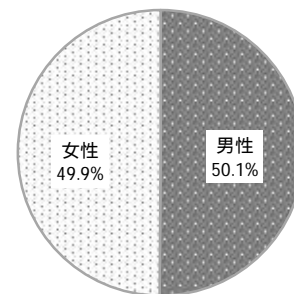
回答者の属性について

● 性別

「男性」39.9%、「女性」59.9%
となっており、女性比率が高い。



【参考：府中市の18歳以上人口の男女構成】

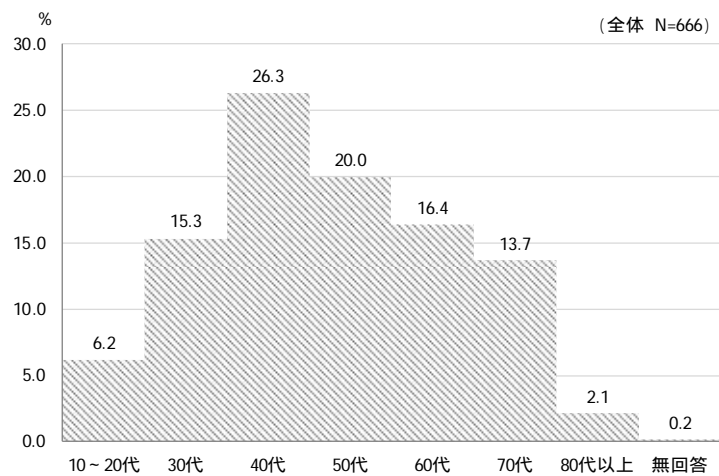


(平成30年2月1日現在18歳以上人口 N=216,585)

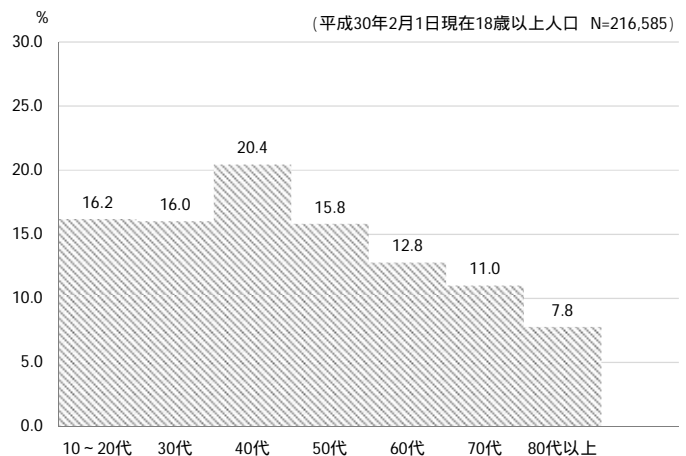
住民基本台帳より

● 年齢

最も多いのは「40代」の26.3%
で、次に「50代」の20.0%となっ
ており、40代・50代で全体の56.3%
を占める。

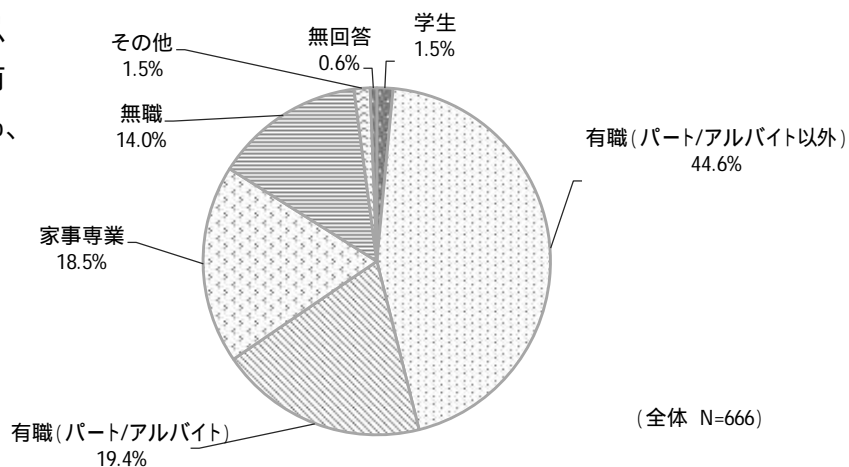


【参考：府中市の18歳以上人口の年齢構成】



● 職業

「有職（パート・アルバイト以外）」が44.6%で最も多く、次に「有職（パート・アルバイト）」の19.4%、「家事専業」の18.5%と続く。



● 居住地

「日吉町」を除く全町から回答を得ている。最も多いのは「白糸台」の6.6%で、次に「四谷」の4.7%となる。

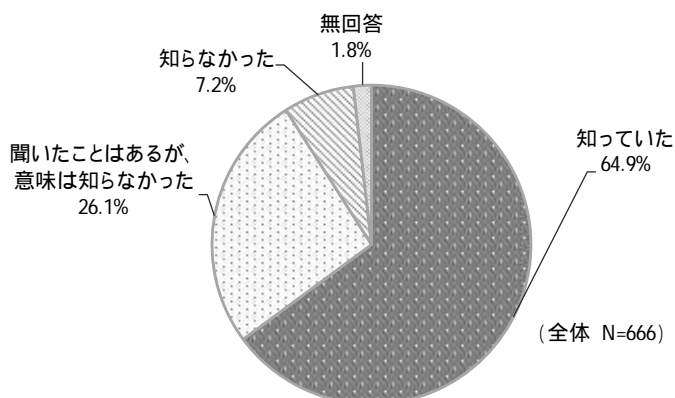
(全体 N=666)

朝日町	押立町	片町	北山町	寿町	小柳町	是政	幸町	栄町	清水が丘	白糸台	新町	住吉町
2.4	4.4	1.5	1.4	0.3	3.0	5.9	1.5	2.7	1.7	6.6	3.6	3.6
浅間町	多磨町	天神町	東芝町	西原町	西府町	日鋼町	日新町	八幡町	晴見町	日吉町	府中町	分梅町
3.2	0.6	2.7	0.9	1.2	2.1	0.3	0.6	1.8	3.2	0.0	2.9	2.6
本宿町	本町	緑町	南町	宮西町	宮町	美好町	武蔵台	紅葉丘	矢崎町	四谷	若松町	無回答
3.2	2.6	2.4	4.5	2.6	2.0	4.4	2.4	3.9	1.1	4.7	4.2	2.0

2. 生涯学習の現状について

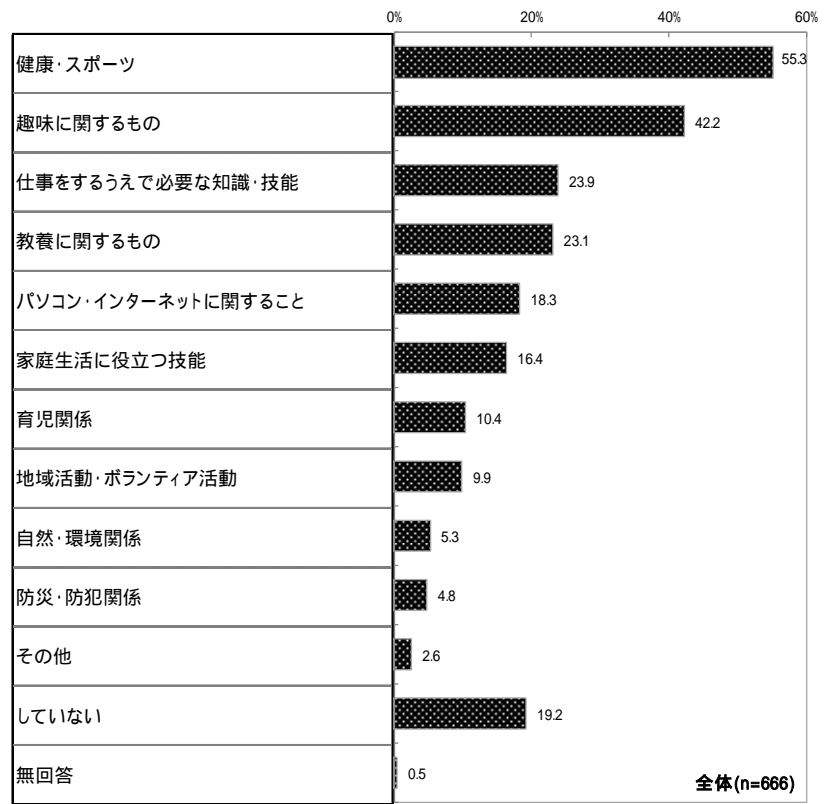
問1 「生涯学習」という言葉をご存知でしたか。(○は1つ)

「知っていた」64.9%、「聞いたことはあるが、意味は知らなかった」26.1%となっており、市民の過半が言葉の内容まで理解し、9割以上が言葉は聞いたことがあるという結果になった。

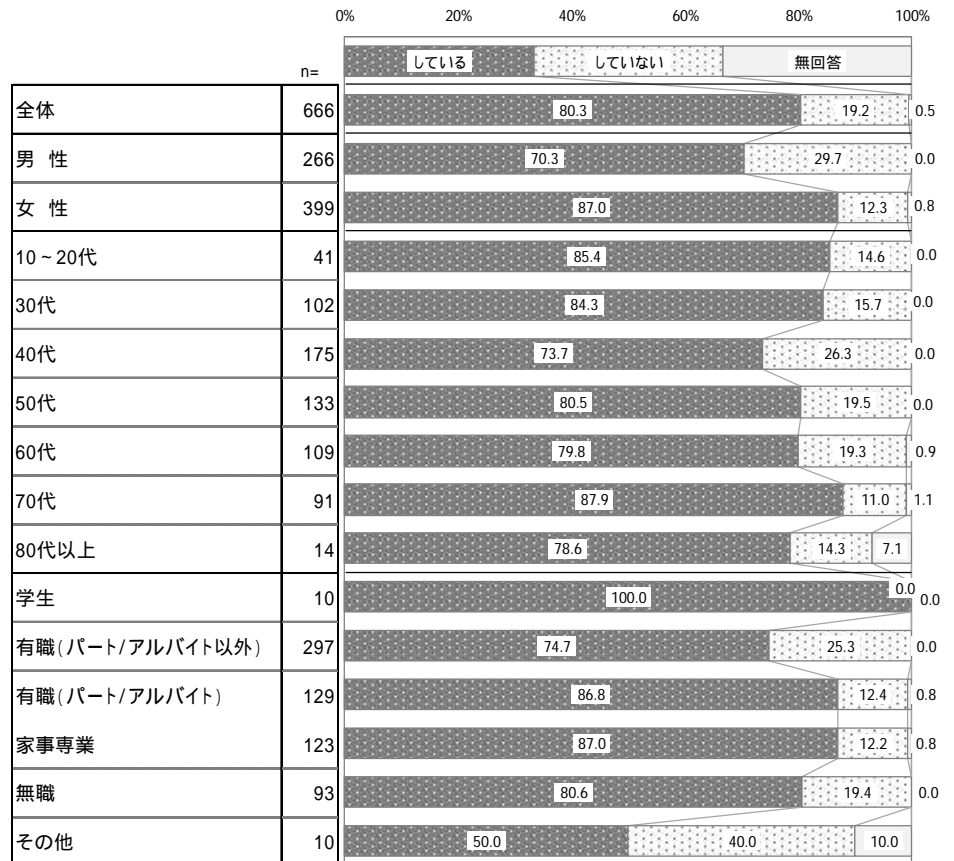


問2 どのような「生涯学習」をしたことがありますか。(○は3つ以内)

最も多いのは「健康・スポーツ」の55.3%で、次に「趣味に関するもの」42.2%、「仕事をするうえで必要な知識・技能」23.9%、「教養に関するもの」23.1%と続く。



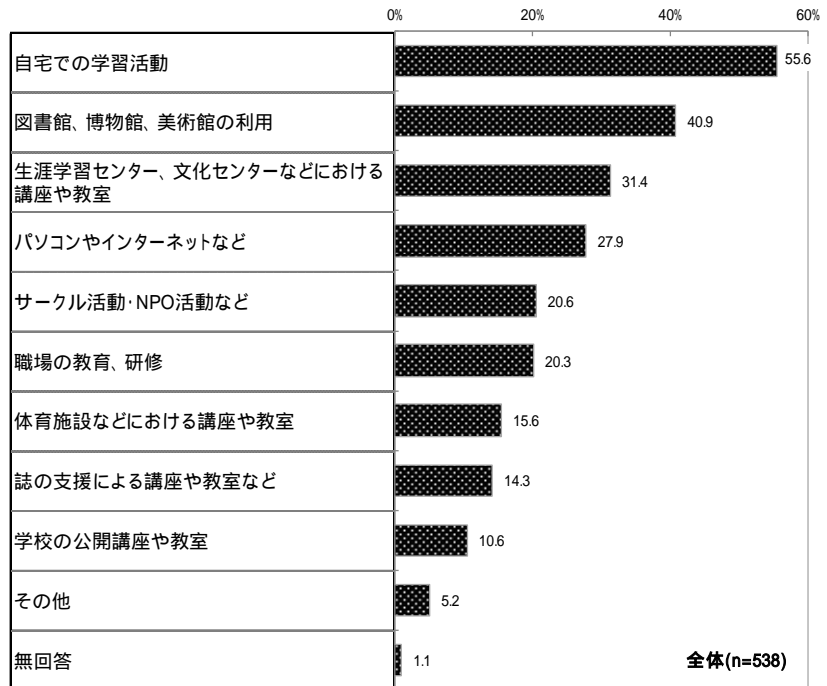
【参考：生涯学習の実施率】



問3

生涯学習をした人のみ どのような方法で「生涯学習」をしたことがありますか。
(○は3つ以内)

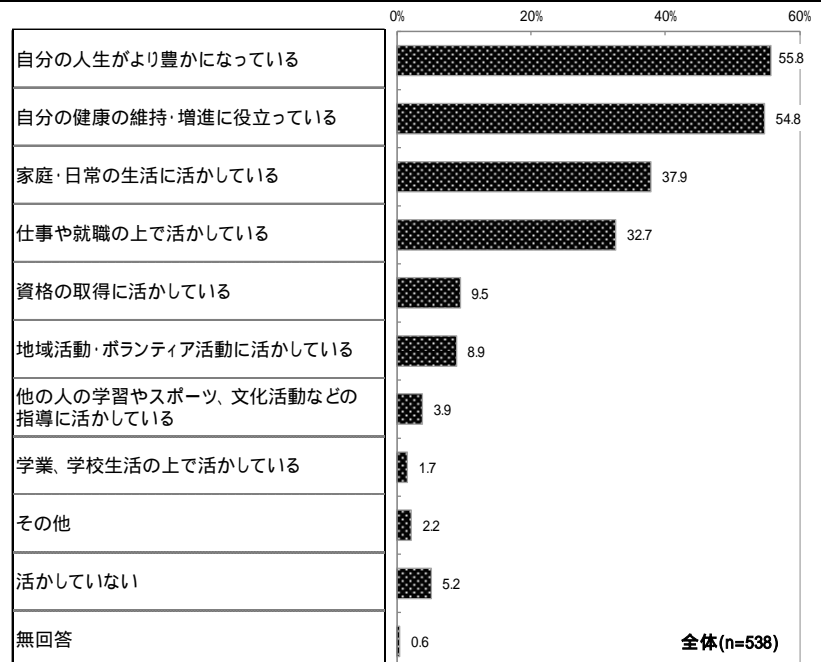
最も多いのは「自宅での学習活動」(55.6%)で、次に「図書館、博物館、美術館の利用」の40.9%、「生涯学習センター、文化センターなどにおける講座や教室」の31.4%となる。



問4

生涯学習をした人のみ 「生涯学習」を通じて身につけた知識・技能や経験を、どのように活かしていますか。(○は3つ以内)

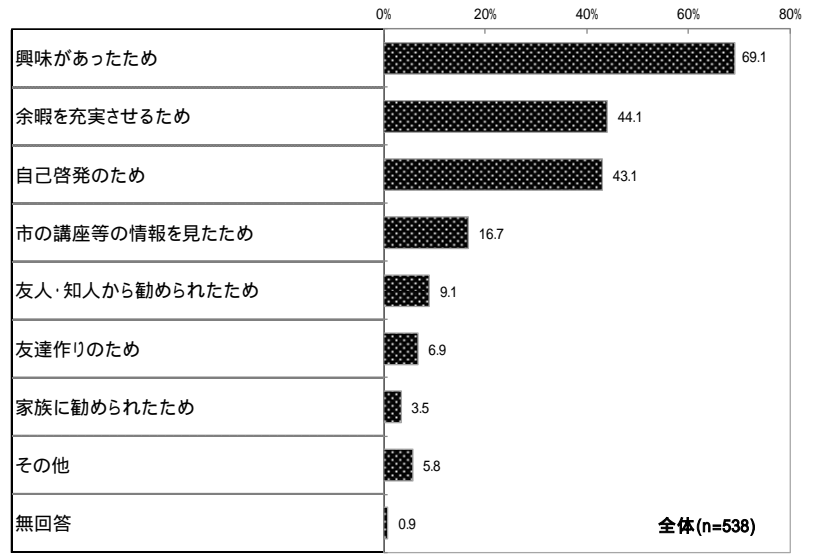
「自分の人生がより豊かになっている」(55.8%)、「自分の健康の維持・増進に役立っている」(54.8%)の2つの回答が多くなっている。次に「家庭・日常生活に活かしている」(37.9%)、「仕事や就職の上で活かしている」(32.7%)が続く。



問5

生涯学習をした人のみ 「生涯学習」を始めたきっかけは何ですか。(〇は3つ以内)

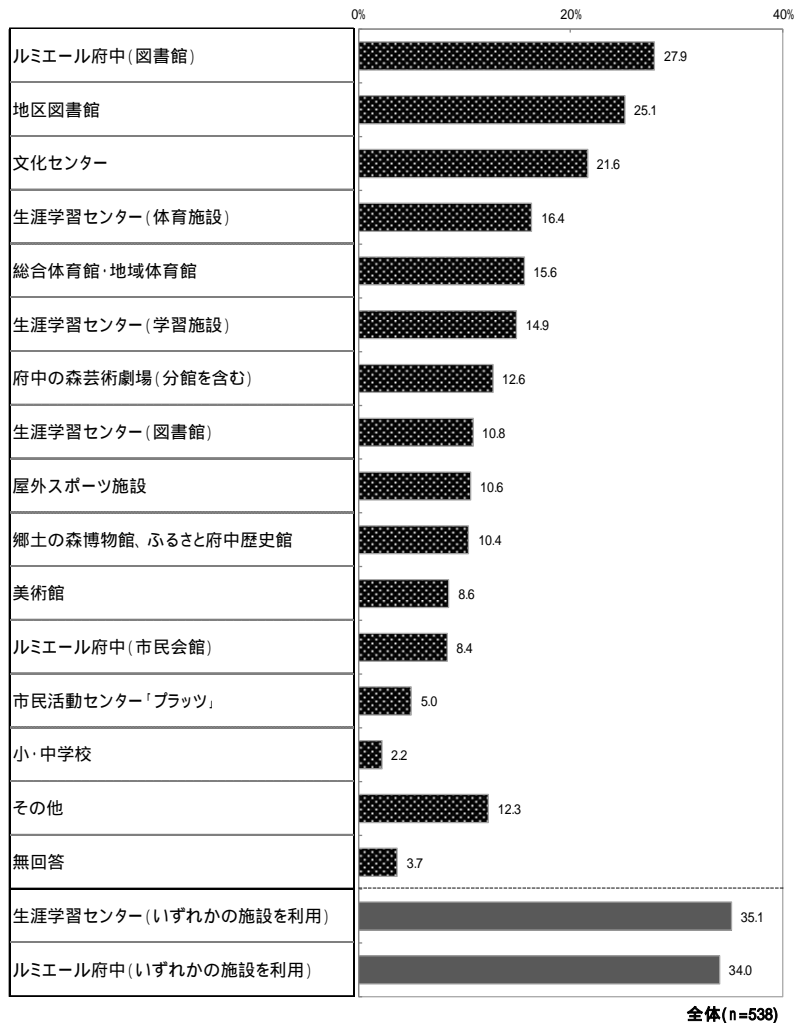
「興味があったため」が69.1%で最も多く、次に「余暇を充実させるため」(44.1%)、「自己啓発のため」(43.1%)となっている。



問6

生涯学習をした人のみ 「生涯学習」を行う中でよく利用する市の施設はどれですか。(〇は3つ以内)

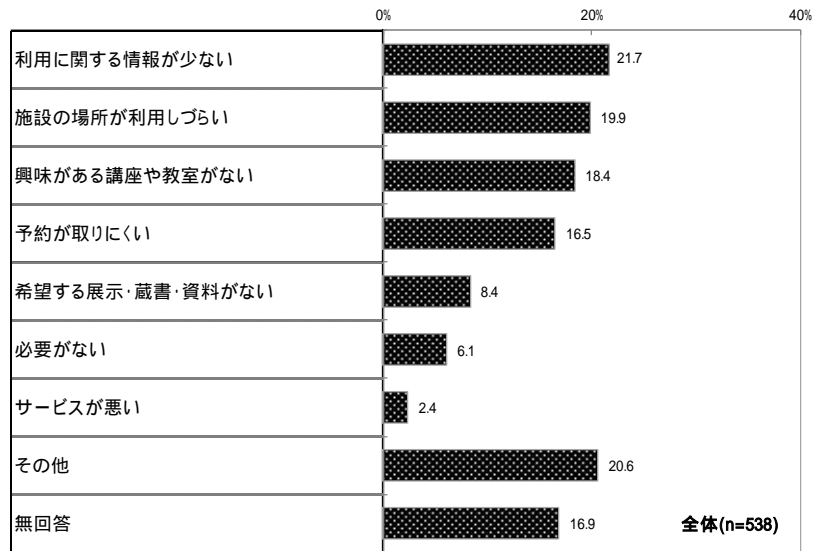
利用している施設で最も多いのは「ルミエール府中(図書館)」の27.9%で、次に「地区図書館」(25.1%)、「文化センター」(21.6%)となっている。



問7

生涯学習をした人のみ 問6の施設等を利用する上での問題点は何ですか。(〇は3つ以内)

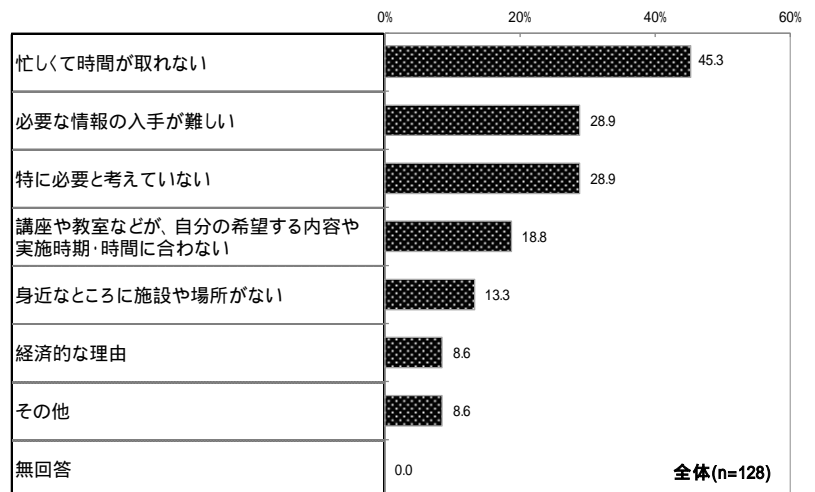
「利用に関する情報が少ない」が21.7%で最も多く、次に「施設の場所が利用しづらい」(19.9%)、「興味がある講座や教室がない」(18.4%)、「予約が取りにくい」(16.5%)と続く。



問8

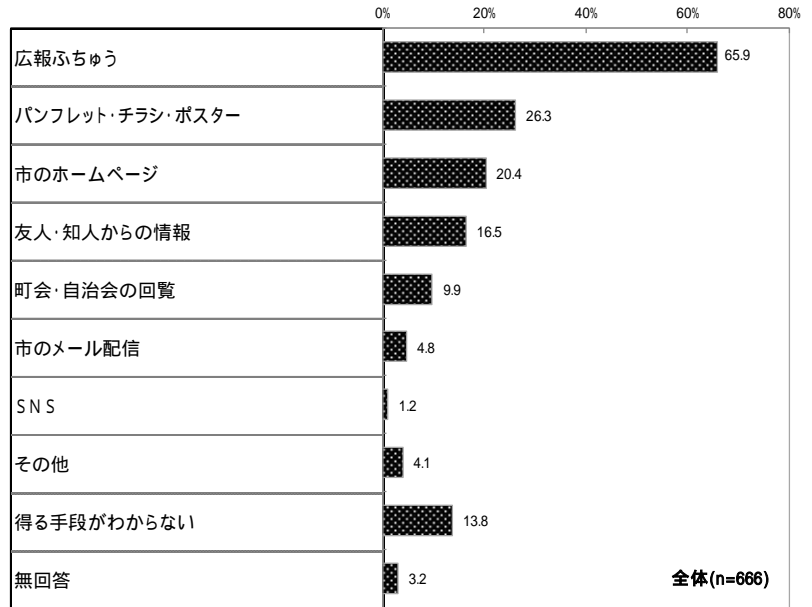
生涯学習をしていない人のみ 「生涯学習」をしていない理由は何ですか。(〇は3つ以内)

最も多いのは「忙しくて時間が取れない」の45.3%で、次に「必要な情報の入手が難しい」と「特に必要と考えていない」の28.9%が続く。



問9 市の「生涯学習」に関する情報を、どのように得ていますか。(○は3つ以内)。

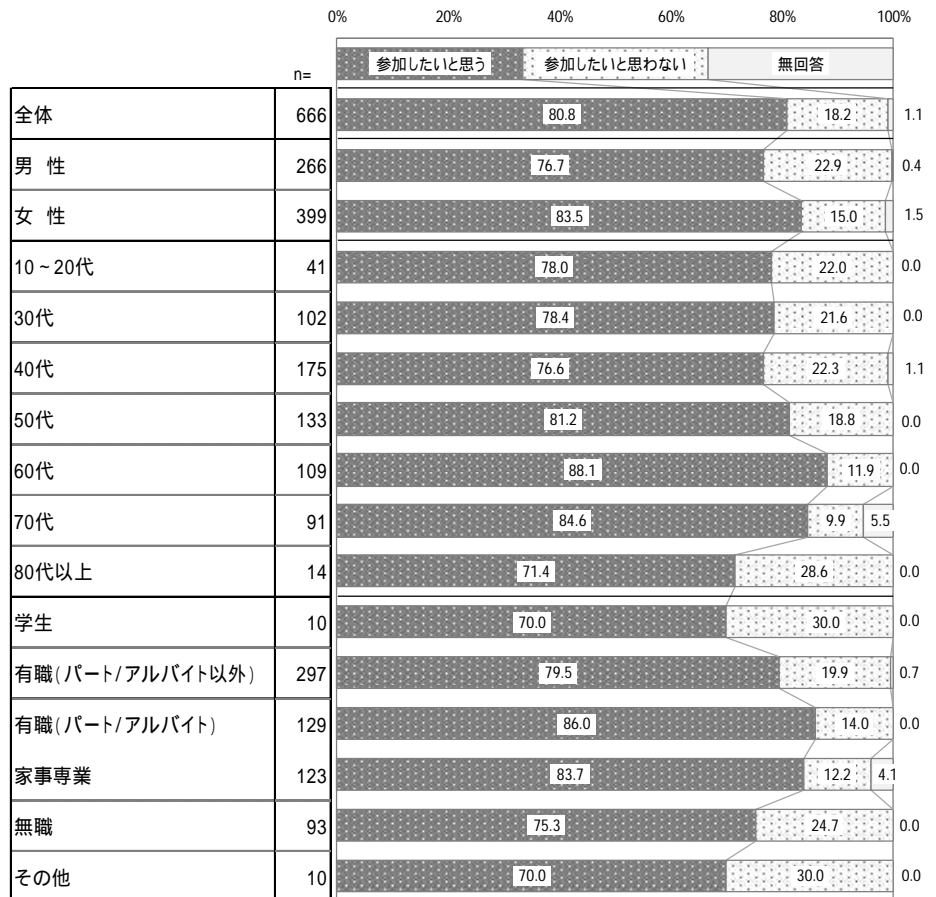
「広報ふちゅう」が65.9%で最も多く、かなり離れて「パンフレット・チラシ・ポスター」(26.3%)、「市のホームページ」(20.4%)となっている。



3 . 府中市の生涯学習の施策に対する今後の意向について

問10 今後、市の「生涯学習」事業に参加したいと思いますか。(○は1つ)

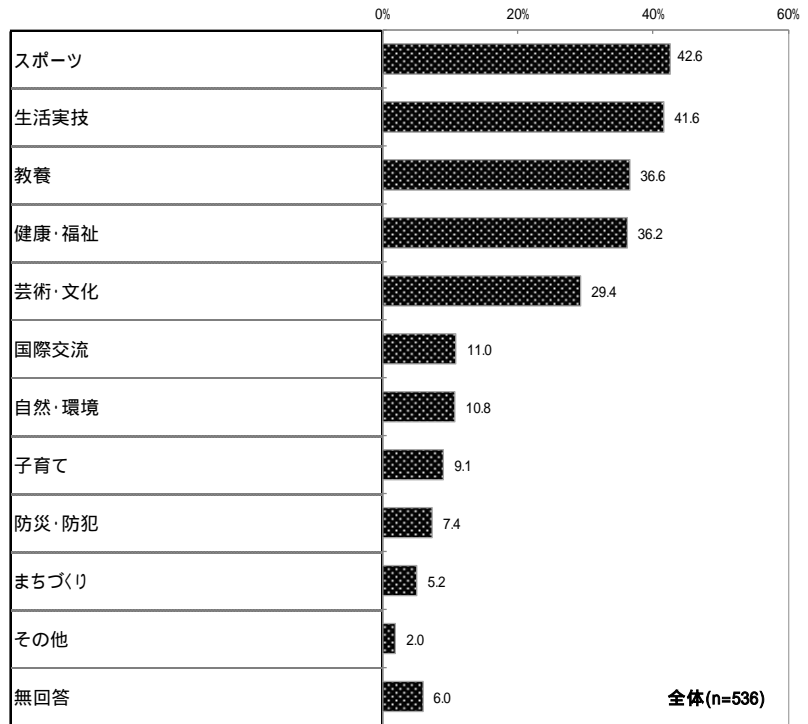
全体の80.8%が「参加したいと思う」と回答しており、「参加したいと思わない」という回答は18.2%にとどまる。



問 11

問 10 で「参加したいと思う」と回答した人のみ 今後、市の「生涯学習」事業でどのような分野を望みますか。（○は3つ以内）

最も多いのは「スポーツ」の42.6%で、次に「生活実技」(41.6%)、「教養」(36.6%)、「健康・福祉」(36.2%)、「芸術・文化」(29.4%)と続いている。

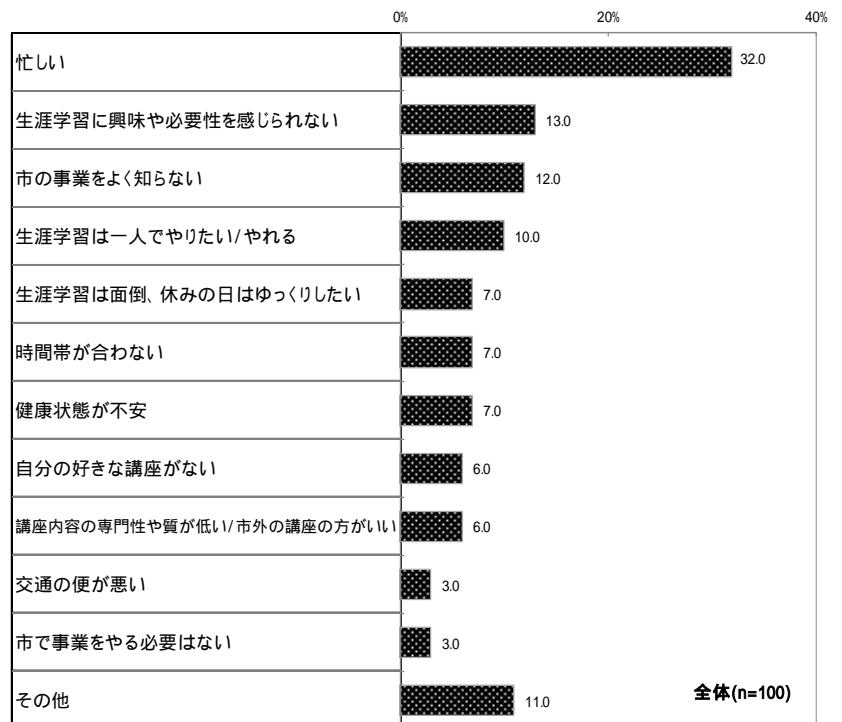


問 12

問 10 で「参加したいと思わない」と回答した人のみ 参加したいと思わない理由は何ですか。また、今後、どのような市の「生涯学習」事業であれば参加してみたいと思いますか。（自由記述）

最も多いのは「忙しい」の32.0%で、次にかなり離れて「生涯学習に興味や必要性を感じられない」(13.0%)となる。

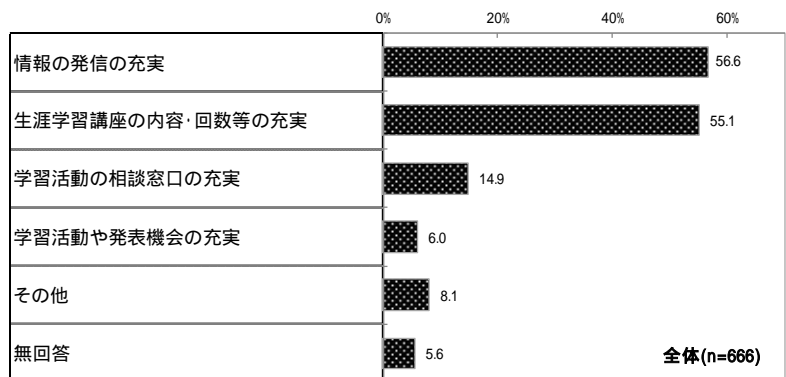
「市の事業をよく知らない」(12.0%)、「時間帯が合わない」(7.0%)、「自分の好きな講座がない」(6.0%)、「講座内容の専門性や質が低い」(6.0%)と回答している層については、広報の強化や事業形態の改善により、生涯学習事業への参加が促進できる可能性がある。



問 13

今後、市民の「生涯学習」活動をもっと盛んにしていくために、充実してほしいサービスはどんなことですか。（○は3つ以内）

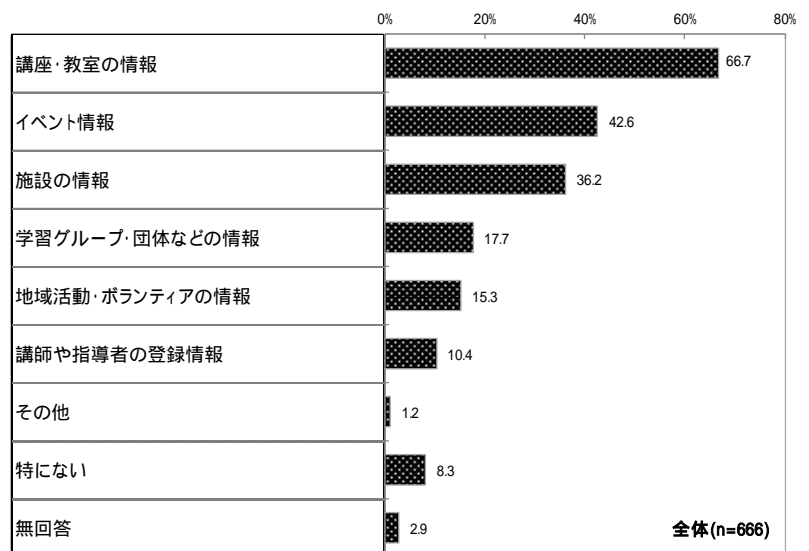
最も多いのは「情報の発信の充実」の56.6%で、次に「生涯学習講座の内容・回数等の充実」が僅かの差（55.1%）で続いている。



問 14

市の「生涯学習」に関する情報で望むものは何ですか。（○は3つ以内）

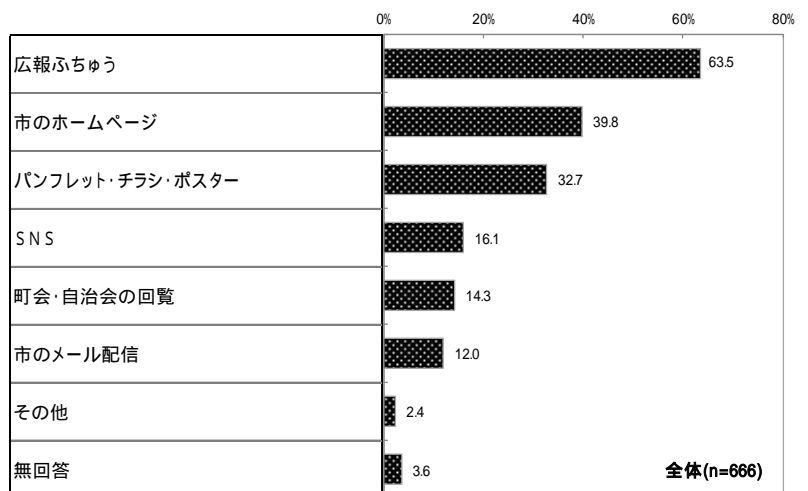
「講座・教室の情報」が66.7%と全体の3分の2を越え、次に「イベント情報」(42.6%)、「施設の情報」(36.2%)と続いている。



問 15

市の「生涯学習」に関する情報提供の手段で、力を入れるべきだと思うものは何ですか。（○は3つ以内）

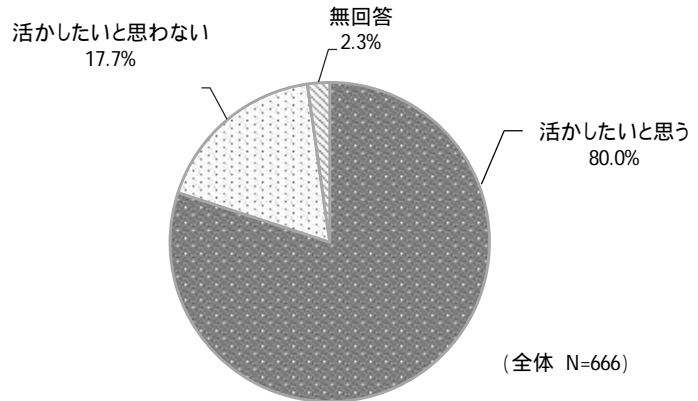
「広報ふちゅう」が63.5%と最も多く、次に「市のホームページ」(39.8%)、「パンフレット・チラシ・ポスター」(32.7%)と続いている。



4. 生涯学習の成果について

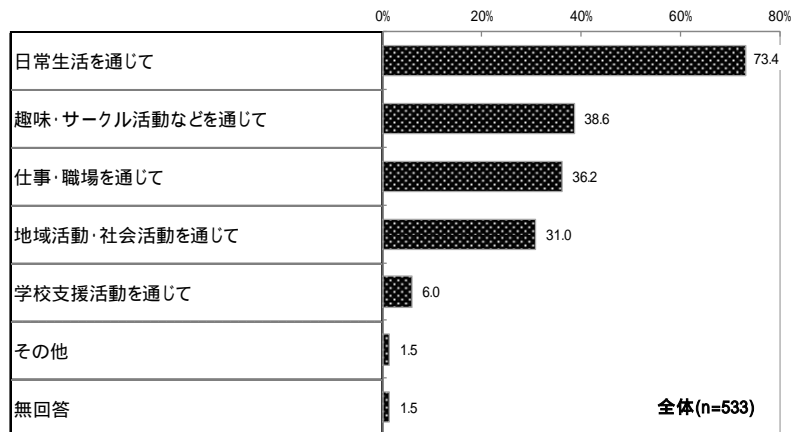
問 16 「生涯学習」を通じて身につけた知識・技能や経験を、自分以外のために活かしたいと
 思いますか。(○は1つ)

全体の80.0%が「自分以外のために活かしたい」と回答しており、「活かしたいと思わない」は17.7%にとどまっている。



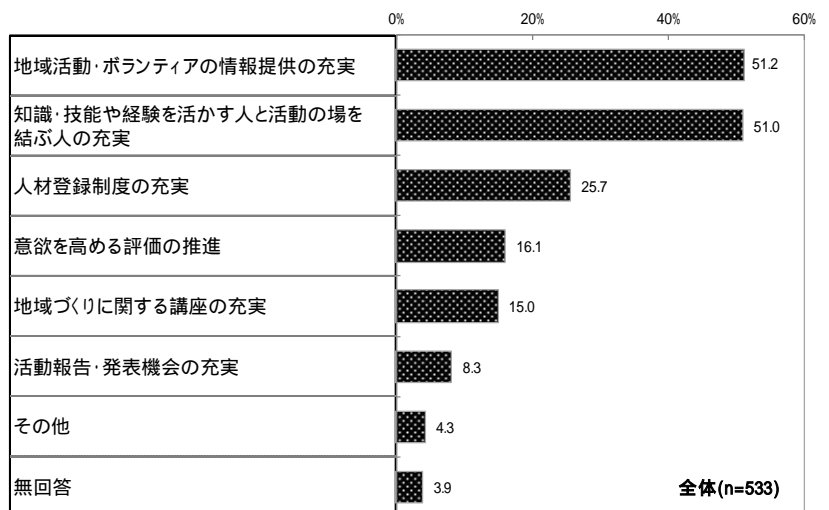
問 17 問 16 で「活かしたいと思う」と回答した人のみ それをどのように活かしたいと
 思いますか。(○は3つ以内)

「日常生活を通じて」が73.4%と最も多く、次に「趣味・サークル活動などを通じて」の38.6%、「仕事・職場を通じて」の36.2%、「地域活動・社会活動を通じて」の31.0%と続いている。



問 18 問 16 で「活かしたいと思う」と回答した人のみ 「生涯学習」を通じて身につけた
 知識・技能や経験を、自分以外のために活かすには、どのようなことが必要だと思
 いますか。(○は3つ以内)

「地域活動・ボランティアの情報提供の充実」(51.2%)と「知識・技能や経験を活かす人と活動の場を結ぶ人の充実」(51.0%)の2つが、ほぼ同率で、1位・2位となっている。次はかなり離れて「人材登録制度の充実」(25.7%)となる。

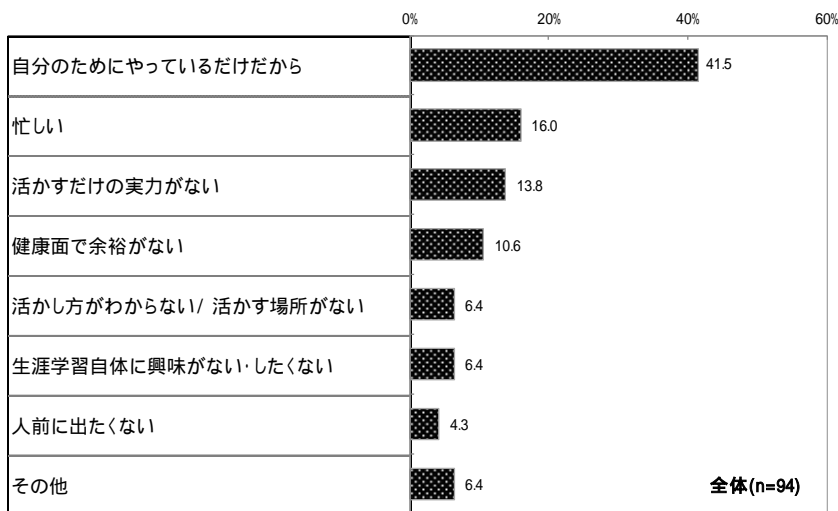


問 19

問 16 で「活かしたいと思わない」と回答した人のみ 活かしたいと思わない理由をお書きください。（自由記述）

最も多いのは「自分のためにやっているだけだから」で 41.5% となる。次に「忙しい」(16.0%)、「活かすだけの実力がない」(13.8%)、「健康面で余裕がない」(10.6%)と続く。

性別で見ると、「忙しい」は男性が、「活かすだけの実力がない」は女性の回答が多い。一方、高齢者では「健康面で余裕がない」という回答が多くなっている。

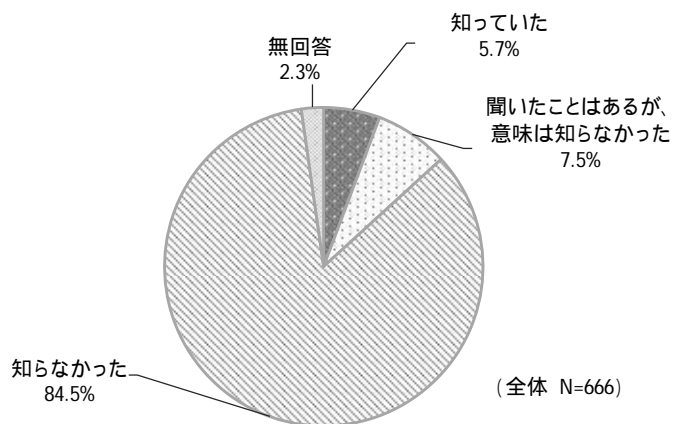


5 . 「学び返し」について

問 20

市が掲げている「学び返し」という言葉をご存知でしたか。（○は1つ）

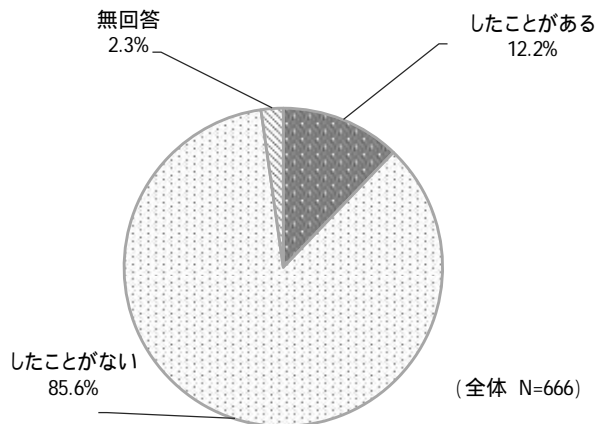
学び返しを「知っていた」のは 5.7%、「聞いたことはあるが、意味は知らなかった」は 7.5% となっており、併せて 13.2% に止まる。一方、「知らなかった」という回答は 84.5% である。



問 21

「学び返し」をしたことがありますか。(○は1つ)

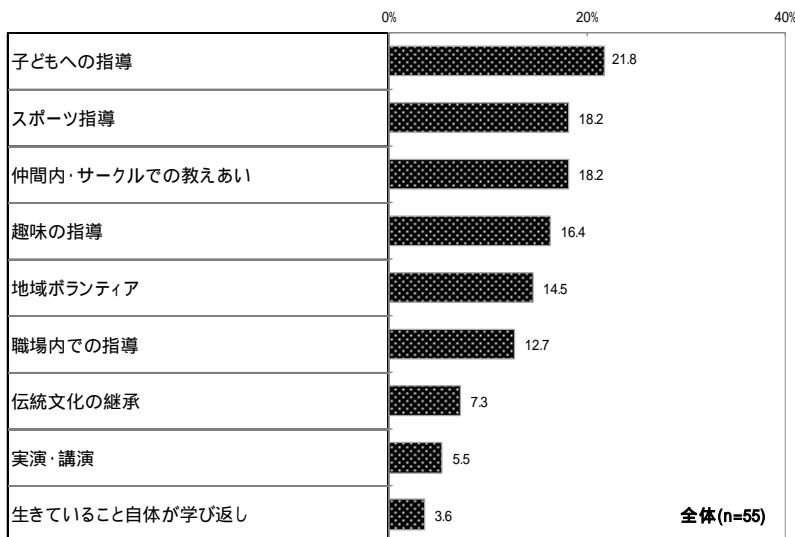
「したことがある」は12.2%、
「したことがない」は85.6%とな
っており、実施率は1割強にとど
まっている。



問 22

問 21 で「したことがある」と回答した人のみ どのような「学び返し」をしていま
すか。(自由記述)

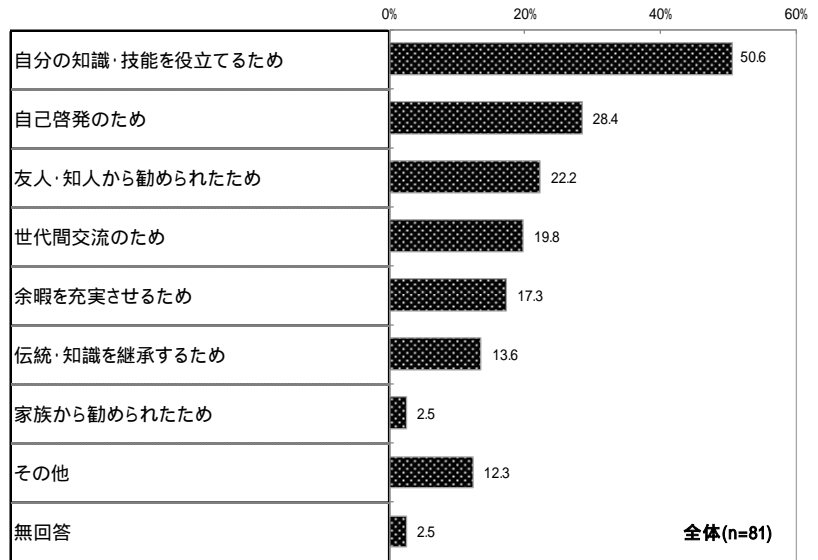
最も多いのは、「子どもへの指
導」の21.8%で、次に「スポーツ
指導」と「仲間内・サークル内
での教え合い」の18.2%、「趣味の
指導」の16.4%などと続く。教え
るのではなく、活動で地域に返す
「地域ボランティア」の活動は
14.5%にとどまる。



問 23

問 21 で「したことがある」と回答した人のみ 「学び返し」を始めたきっかけは何ですか。(○は3つ以内)

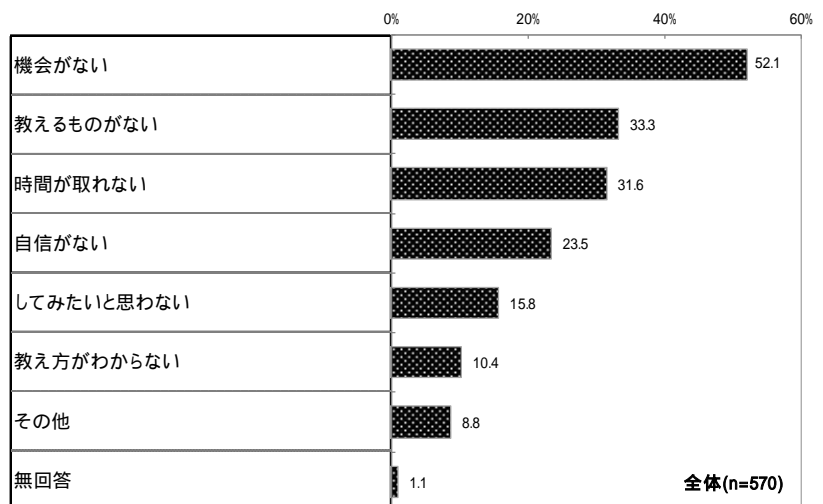
きっかけで最も多いのは「自分の知識・技能を役立てるため」の50.6%で、次にかなり離れて「自己啓発のため」(28.4%)、「友人・知人から勧められたため」(22.2%)、「世代間交流のため」(19.8%)と続いている。



問 24

問 21 で「したことがない」と回答した人のみ 「学び返し」をしたことがない理由は何ですか。(○は3つ以内)

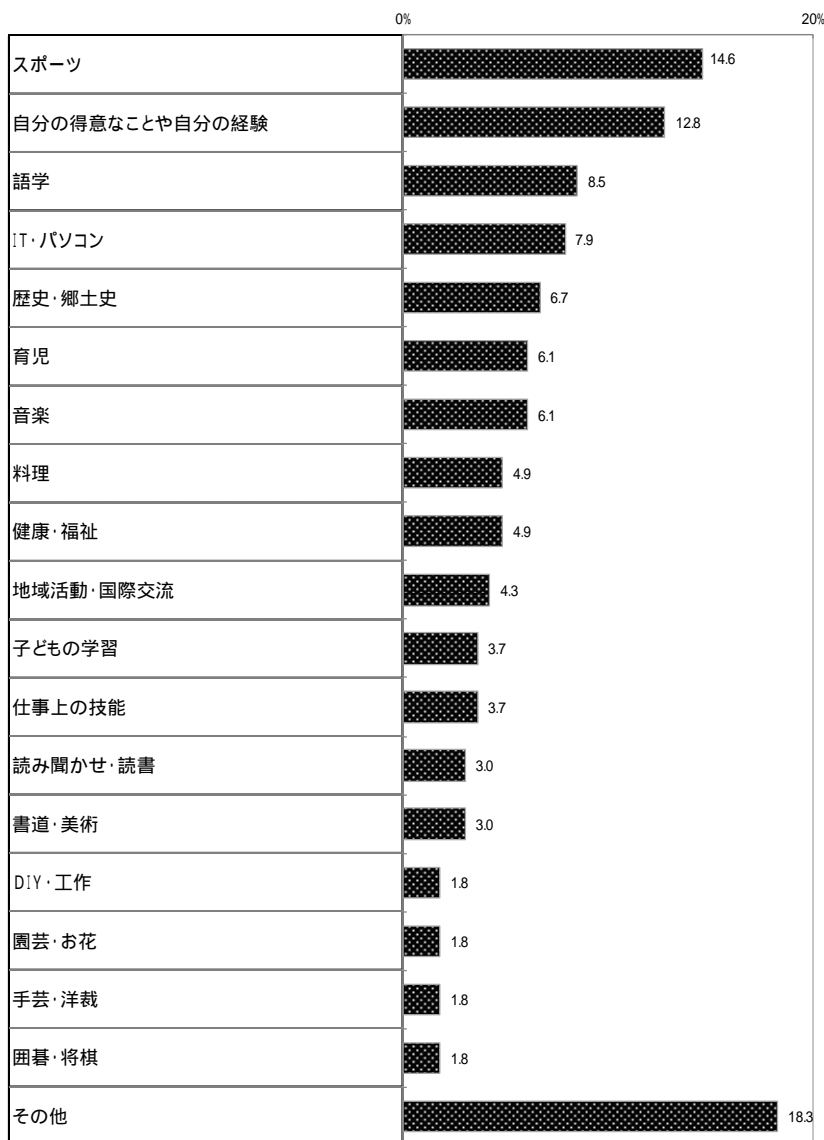
最も多いのは「機会がない」の52.1%で、次に「教えるものがない」33.3%、「時間が取れない」31.6%、「自信がない」23.5%と続く。



問 25

今後、どのような「学び返し」であればしてみたいと思いますか。（自由記述）

最も多いのは「スポーツ」の指導の14.6%で、次に「自分の得意なことや自分の経験を伝える」の12.8%、「語学」8.5%、「IT・パソコン」7.9%、「歴史・郷土史」6.7%等と続く。

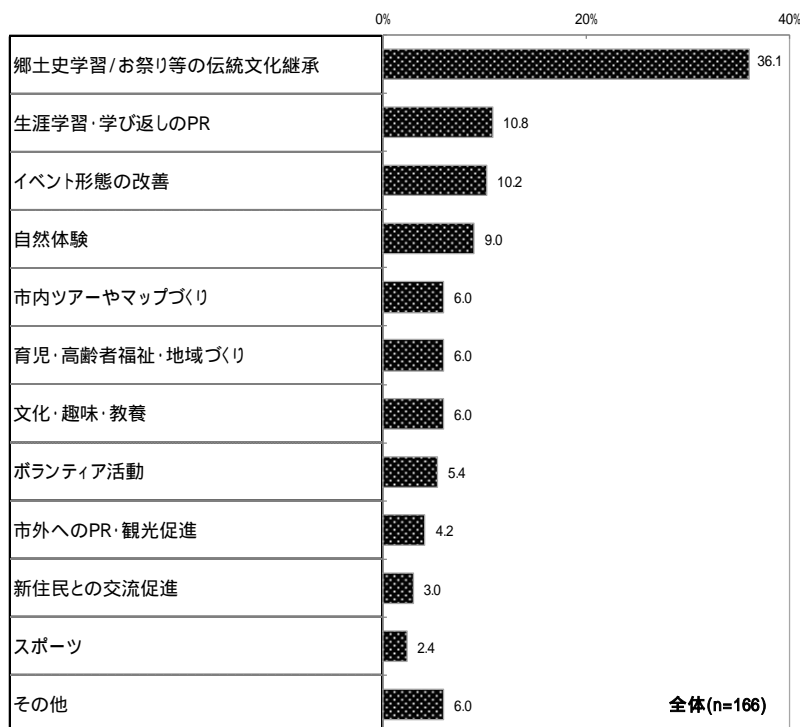


全体(n=164)

問 26

府中市は、自然豊かで、多くの公共施設や歴史的文化財があり、お祭りやイベントなどにぎわいがあるまちです。あなたはこういった市の特徴を活かしてどのような「学び返し」ができると思いますか。（自由記述）

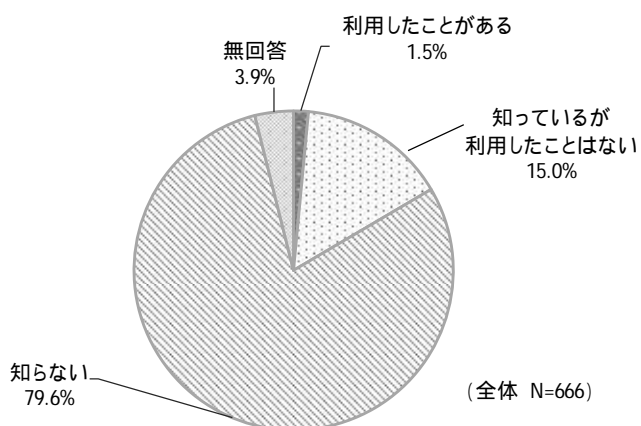
「郷土史学習/お祭り等の伝統文化継承」が36.1%と非常に多く、かなり離れて「生涯学習・学び返しのPR」の10.8%、「イベント形態の改善」の10.2%と続く。



問 27

「生涯学習サポーター」制度を知っていますか。または、利用したことがありますか。（は1つ）

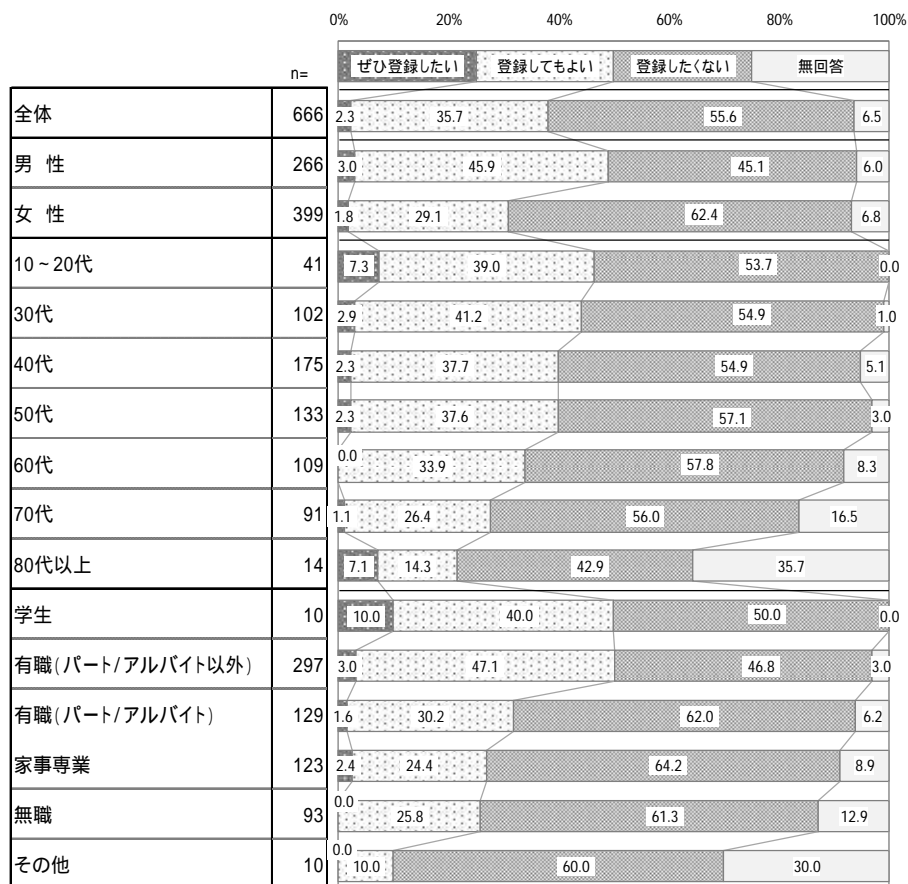
「利用したことがある」は1.5%、「知っているが利用したことはない」は15.0%にとどまり、全体の79.6%が「知らない」と回答している。



問 28

「学び返し」の手段として、「生涯学習サポーター」制度に登録したいと思いますか。
(は1つ)

「ぜひ登録したい」2.3%、
「登録してもよい」35.7%と
なっており、あわせて
38.0%に登録意向がある。

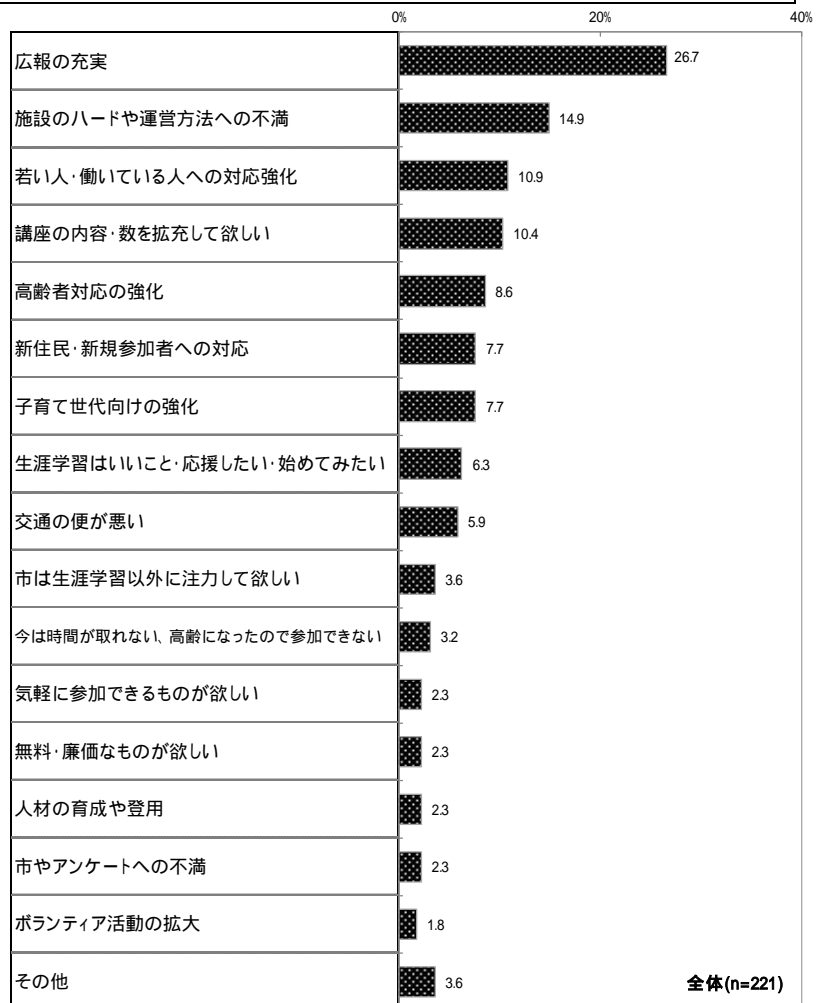


6. 自由意見

問 29

その他、市の「生涯学習」の施策や市民の皆様の活動を推進していく上でご提案、ご意見など自由にお書きください。（自由記述）

全体で最も多かったのは、「広報の充実」の26.7%、次に「施設のハードや運営方法への不満のハードや運営方法への不満」の14.9%、「若い人・働いている人への対応強化」の10.9%、「高齢者対応の強化」の8.6%、「新住民・新規参加者への対応」と「子育て世代向けの強化」の7.7%と続く。



【参考：「広報の充実」について記載した性・年代別割合】

